



令和5年度

(令和4年度事業対象)

教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検評価報告書

令和5年11月

美祢市教育委員会



目 次

I	点検及び評価の概要	
1	点検・評価の目的	2
2	点検・評価の対象	2
II	教育委員会の活動状況に係る点検及び評価	
1	教育委員会の活動状況	3
III	教育委員会の事務事業の実施状況に係る点検及び評価	
1	実施方法	9
2	点検及び評価の実施	14
3	評価結果	40
4	今後の取組	42
参考	令和5年度美祢市教育委員会事務事業の点検及び評価の実施に関する方針	44

I 点検及び評価の概要

1 点検・評価の目的

美祢市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、令和4年度に実施した事業について、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行いました。

事務事業の点検及び評価については、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、市民への説明責任を果たすため、ホームページで公表することとしています。

そして、点検・評価の結果を今後の事業展開に反映することにより、効果的な教育行政を推進することを目的としています。

2 点検・評価の対象

(1) 教育委員会の活動状況に係る点検及び評価

＜教育委員会会議の開催状況、学校訪問の状況等＞

(2) 教育委員会の事務事業の実施状況に係る点検及び評価

＜「美祢市教育振興基本計画 実施計画」に掲げる主な取組のうち主要事業の実施状況及び成果＞

＜参考：根拠法律の条文＞

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 教育委員会の活動状況に係る点検及び評価

1 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会は、令和4年度に教育委員会会議を13回開催し、議案54件、報告16件を審議しました。

回	年 月 日	開催場所	議 案	報 告
1	令和4年4月27日	本庁3階委員会室	6	4
2	令和4年5月25日	本庁3階委員会室	7	2
3	令和4年6月27日	本庁3階委員会室	4	2
4	令和4年7月22日	本庁3階委員会室	2	2
5	令和4年8月25日	本庁3階委員会室	5	0
6	令和4年9月26日	本庁3階委員会室	0	0
7	令和4年10月25日	本庁3階委員会室	2	0
8	令和4年11月25日	本庁3階委員会室	2	3
9	令和4年12月26日	本庁3階委員会室	3	0
10	令和5年1月25日	本庁3階委員会室	1	0
11	令和5年2月27日	本庁3階委員会室	3	3
12	令和5年3月3日(臨時)	本庁3階委員会室	1	0
13	令和5年3月27日	本庁3階委員会室	18	0
計	13回	—	54件	16件

(2) 意見交換等の状況

① 教育課題への認識を深めるため、教育委員会会議において意見交換等を行いました。

年 月 日	意見交換テーマ等
令和4年 4月 27日	慶応義塾大学 SFC 研究所との連携協定締結について
	部活動改革について
	小中一貫教育の成果について
	出張 mineto について
令和4年 5月 25日	部活動改革について
	ジオパーク活動の推進について
令和4年 6月 27日	学校給食センターについて
	部活動改革について
	mineto 教育改革プロジェクトについて
	個別最適な学びについて
令和4年 7月 22日	学校給食について
	於福中学校の統合について
	電子図書館について
	秋吉台保存活用計画について
令和4年 8月 25日	mineto×SFC 合宿について
令和4年 9月 26日	部活動改革について
	特別天然記念物秋芳洞再生事業について

令和4年10月25日	全国学力学習状況調査について
令和4年11月25日	図書館の建替について
	不登校対策について
令和4年12月26日	公設塾minetoについて
令和5年1月26日	令和5年度重点事業について
	美東小中学校について
	美祢市立図書館の基本計画について
	令和4年度市町村教育委員会研究協議会の復伝について
令和5年2月27日	美東小中学校について
令和5年3月27日	令和5年度当初予算について
	特別天然記念物秋芳洞再生事業について

② 適正規模・適正配置に関わる情報交換を市内小中校長と行いました。

年 月 日	学校区名	教育長・教育委員
令和4年12月13日	厚保中校区	1
令和4年12月16日	大嶺中校区	1
令和4年12月20日	美東中校区	3
令和4年12月22日	伊佐中校区	1
令和5年1月23日	秋芳中校区	4

(3) 学校訪問の状況

教育委員は、学校現場の現状を把握するとともに、教育課題に対応するため、学校訪問（6校）を実施しました。

訪 問 校	
年 月 日	学 校 名
令和4年 5月 26日	秋 芳 中 学 校
令和4年 7月 4日	豊 田 前 小 学 校
令和4年 7月 6日	厚 保 中 学 校
令和4年 7月 8日	美 東 中 学 校
令和4年 10月 18日	厚 保 小 学 校
令和4年 10月 26日	秋 芳 桂 花 小 学 校

(4) 研修の状況

年月日	会議名（開催場所）	出席者	内容
令和4年5月12日	第72回全国都市教育長協議会定期総会 並びに研究大会（山口市）	教育長	○事例発表（1件）
令和4年10月11日	山口県市教育委員会協議会研修会 （岩国市）	教育長 教育長職務代理者 教育委員	○事例発表（2件）
令和4年10月31日～ 令和4年11月1日	市町村教育委員会研究協議会 （長崎市）	教育長 教育長職務代理者 教育委員	○分科会別グループ協議

(5) その他の活動の状況

① 市広報誌への掲載等

市民に小・中学校の情報を提供するため、また、公設塾 mineto の活動を報告するために、市内全世帯に配布される市広報紙「げんきみね」に活動の様子を掲載しました。また、各種行事等の様子について、MYT での放送に努めました。

② 各種行事への参加

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、小・中学校の運動会、文化祭等各種行事への参加を中止しましたが、教育委員会会議において行事報告を受け、学校の様子や教育の振興などの状況把握に努めました。

③ 総合教育会議

令和4年度は開催していません。

Ⅲ 教育委員会の事務事業の実施状況に係る点検及び評価

1 実施方法

(1) 点検及び評価の対象

令和2年度から以下の将来像と基本理念を掲げる「第2次美祿市総合計画」がスタートしました。

将来像	若者・女性・地域がかがやき こどもの笑い声が響く「誇れる郷土・秋吉台のまち」
基本理念	秋吉台の魅力を活かし、みんなの力で創り出す！「観光・産業・共創CITY」

将来像を実現するため、基本理念の下、まちづくりの目標として次の5つの基本目標を設定しました。

- ① 「魅力の創出・交流」の拡大
- ② 強みを活かした「産業の振興」
- ③ 市の宝となる「ひとの育成」
- ④ 安全・安心な「まちづくり」
- ⑤ 「行財政運営」の強化

教育委員会は“市の宝となる「ひとの育成」”を基本目標のひとつに掲げ、次世代を育む教育環境の充実や地域に伝わる歴史・文化の継承、地域活動を支える担い手の育成など、「ひと」を大切にしたまちづくりを推進することとし、令和2年3月に、「ひとが育つ ひとが輝く 教育の美祿」の基本理念を継続し「第2次美祿市教育振興基本計画」を策定しました。

豊かな自然と歴史・文化を持っている、ふるさと美祿において、学校・家庭・地域の連携のもと、自ら力をつけ、夢・希望・誇りをもって21世紀を生き抜くことができる人材を育てるとともに、生涯にわたり、お互いが力強く、いきいきと輝くひとづくりを目指します。

令和5年度事務事業の評価は、「美祿市教育委員会事務事業の点検及び評価の実施に関する方針」に基づき、「第2次美祿市教育振興基本計画実施計画」に掲げる取組のうち、次の主要事業（148事業）を点検及び評価の対象にしています。

令和5年度 教育委員会事務事業評価主要事業（対象：令和4年度事業）

第2次美祢市教育振興基本計画基本理念「ひとが育つひとが輝く 教育の美祢」～地域が輝き 子どもの笑い声が響く「誇れる郷土・秋吉台のまち」～

1 生きる力を高め、 将来を担うひとづくり	1 学校運営の質の向上	1-1 安全で安心して学べる環境の充実	小・中学校の適正配置の推進	1	小・中学校適正規模・適正配置推進事業
			防災教育の推進	2	学校防災管理体制の充実
			通学路の安全確保	3	児童・生徒の防災意識の高揚
			教育環境の整備・充実	4	通学路の安全点検
				5	小学校管理事業
				6	小学校情報化設備整備事業
				7	小学校教育振興事業
				8	小学校就学援助事業
				9	小学校通学支援事業
		10		小学校施設整備事業	
		11		中学校管理事業	
		12		中学校情報化設備整備事業	
		安全・安心な学校給食の提供	13	中学校教育振興事業	
			14	中学校就学援助事業	
			15	中学校通学支援事業	
			16	中学校施設整備事業	
			17	私学振興運営費補助事業	
			18	給食調理場管理運営事業	
			19	給食センター整備事業	
	1-2 活力ある学校づくりの推進		20	学校評価・教職員評価などを活用した総合力の向上	
			21	指導業務（指導経費）	
			22	教育振興経費	
		23	指導業務（世界に羽ばたく人財育成推進事業）		
		24	スクールサポートスタッフ配置事業		
		25	ICT教育推進事業		
		26	学校活動応援事業（新しい学校を創る美祢コミュニティ・スクール推進事業（再掲）		
		27	みね型地域連携教育推進事業		
		2 学校教育の質の向上	2-1 未来への飛躍を実現する人材の育成	地域連携カリキュラム等の推進	28
	キャリア教育の推進			29	学校活動応援事業（美祢ジオパーク学習推進事業）
	世界へはばたく人材育成の推進			30	発達段階に応じたキャリア教育支援事業
	学力向上に向けた取組の推進			31	学校活動応援事業（特色ある学校活動支援事業）
				32	学校活動応援事業（新しい学校を創る美祢コミュニティ・スクール推進事業）（再掲）
				33	みね型地域連携教育推進事業（再掲）
			34	生きた英語力育成推進事業	
			35	MINEグローバル人材育成推進事業	
			36	公設塾設置運営事業	
			37	美祢魅力発掘隊	
	2-2 学ぶ意欲と確かな学力の育成		「教えて 考えさせて 定着させる授業」の推進	38	学力向上対策プロジェクト事業
			個に応じた指導の推進	39	世界に羽ばたく人財育成事業（再掲）
				40	学力向上対策プロジェクト事業（再掲）
		41		個別最適化学習推進事業	
		42		学力向上対策推進事業（再掲）	
予習・復習などの家庭学習の充実					

基本目標	基本施策	主な取組	No.	評価対象事業名	
1 生きる力を高め、 将来を担うひとづくり	2 学校教育の質の向上	2-3 思いやりに満ちた豊かな心の育成	人権教育の充実	43	教職員の人権尊重意識の醸成
			道徳教育の推進	44	人との関わりを通じた学びの重視
			道徳教育の推進	45	道徳教育の推進
			体験活動の充実	46	特色ある学校活動支援事業（再掲）
			読書活動の充実	47	学校図書館充実事業
		2-4 社会を生き抜く健やかな体の育成	体力向上の推進	48	体育向上の推進
			地域・家庭へ啓発活動	49	地域・家庭へ啓発活動
			基本的な生活習慣の確立	50	基本的な生活習慣の確立事業
			食育の推進	51	市学校給食栄養士部会研修
			食育の推進	52	食材の地産地消推進事業
	2-5 一人ひとりを大切にする教育の推進	食育ネットワーク会議	53	食育ネットワーク会議	
		学校保健の推進	54	市学校保健会	
		いのちを守る教育の推進	55	安全教育の推進	
		いじめ根絶に向けた取組	56	いじめ等生徒指導対策事業（いじめ問題対策事業）	
		いじめ根絶に向けた取組	57	いじめ等生徒指導対策事業（子ども自立支援事業）	
		不登校ゼロに向けた取組	58	いじめ等生徒指導対策事業（心の広場充実事業）	
		特別支援教育の推進	特別支援学級支援事業	59	特別支援学級支援事業
			学級支援補助教員活用事業	60	学級支援補助教員活用事業
			夢をつなぐ特別支援充実事業	61	夢をつなぐ特別支援充実事業
3 家庭・地域の教育力の向上	3-1 家庭教育への支援	通級指導教室 地域コーディネーターによる巡回訪問	62	通級指導教室 地域コーディネーターによる巡回訪問	
		特別支援教育推進事業	63	特別支援教育推進事業	
		就学前教育の支援	64	市教育支援委員会	
	3-2 地域と学校が協働する地域づくりの推進	教育相談会	65	教育相談会	
		支援のネットワークづくり	66	市地域自立支援協議会	
		親の育ちを応援する学びの機会の充実	67	家庭教育支援チーム	
		地域と学校が協働する地域づくりの推進	68	地域学校協働活動推進事業	
		地域連携の体制づくり	69	地域ぐるみの学校安全体制整備の取組	
3-2 地域連携の体制づくり	スクールガードの充実	69	地域ぐるみの学校安全体制整備の取組		

基本目標	基本施策	主な取組	No.	評価対象事業名
2 生涯にわたり、豊かなつながりを育む地域づくり	1 生涯学習の推進	1-1 学ぶ機会の提供と充実		70 人権教育組織推進事業
				71 人権教育地区推進大会開催事業
				72 人権教育視聴覚資料整備事業
				73 人権教育講座開催事業
			公民館活動の充実	74 公民館管理運営事業
			学ぶ機会の充実	75 生涯学習企画推進事業
				76 美祢市生涯学習フェスタ運営事業
				77 市民大学公開講座事業
				78 二十歳のつどい運営事業
				79 花づくり推進事業
			80 勤労青少年ホーム管理運営事業	
		地域リーダー等の人材育成の推進	81 社会教育施策企画事業	
		1-2 生涯学習の体制づくり	住民参加による公民館の運営	82 公民館活動推進事業
			社会教育団体の活性化	83 社会教育団体助成事業
			社会教育施設の充実	84 コミュニティセンター管理運営事業
	85 鳳鳴地域交流センター運営事業			
	86 市民会館管理運営事業			
	87 美東センター管理運営事業			
	88 来福センター管理運営事業			
	89 勤労青少年ホーム管理運営事業（再掲）			
	新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方針の検討	90 持続可能な地域づくりへの取組		
	1-3 図書館活動の推進	図書館機能の整備・充実	91 3図書館（美祢・美東・秋芳）の施設整備	
運営体制の整備		92 美祢図書館運営事業		
		93 美東図書館運営事業		
		94 秋芳図書館運営事業		
子どもの読書活動の推進		95 子ども読書活動推進事業		
2 生涯スポーツの推進	2-1 子どものスポーツ機会の充実	子どもの体力向上の推進	96 スポーツ情報発信事業	
			97 指導者養成事業	
			98 市体育祭開催事業	
			99 美祢市駅伝大会開催事業	
			100 スポーツ少年団運営事業	
	2-2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	子どもを取り巻くスポーツ環境の充実	101 やまぐち部活動改革推進事業	
			102 市民ナイターソフトボール大会開催事業	
			103 スポーツ情報発信事業（再掲）	
			104 美祢市駅伝大会開催事業（再掲）	
			105 体育協会支援事業	
成人のスポーツ参加機会の拡充	106 市民体育祭開催事業（再掲）			
	107 体育協会支援事業（再掲）			
	高齢者の体力づくりの支援	108 スポーツ情報発信事業（再々掲）		
		109 水中運動教室開催事業		
		110 施設巡回点検事業		
	安全・安心の確保			

基本目標	基本施策		主な取組	No.	評価対象事業名		
2 生涯にわたり、豊かなつながりを育む地域づくり	2 生涯スポーツの推進	2-3 地域のスポーツ環境の整備	総合型地域スポーツクラブの育成	111	総合型地域スポーツクラブの設立・支援事業		
			スポーツ指導者やスポーツボランティアの育成	112	スポーツ推進委員研修の開催		
				113	指導者養成講習会の参加促進		
			スポーツ施設の充実	114	体育施設管理運営事業		
				115	学校体育施設開放事業		
			競技力の向上	116	各種大会出場支援事業		
		117	各種大会開催支援事業				
				118	優秀選手表彰制度の充実		
	3 芸術・文化活動の振興	3-1 地域文化活動の継承		伝統、民俗芸能の保存・継承	119	伝統芸能保存団体育成・支援事業	
				地域文化の保存・継承	120	民俗芸能保存継承の支援	
				芸術・文化活動の推進	121	地域文化保存・研究団体支援・育成事業	
				文化活動拠点施設の充実	122	秋吉台国際芸術村運営事業	
		3-2 文化財の保存と活用の推進				123	公民館活動推進事業（再掲） 市民会館管理運営事業（再掲）
					指定文化財の保存・保護	124	指定文化財保護管理事業
						125	秋吉台保全活用計画策定事業
						126	秋芳洞再生事業
						127	文化財保護団体の支援・育成（再掲）
					文化財の活用	128	長登銅山跡地整備事業
		129	出前講座開催事業				
		130	銅山まつり開催事業				
3-3 学術活動の推進				学術活動の推進	131	大仏ミュージアム管理運営事業	
					132	歴史民俗資料館管理運営事業	
					133	化石館管理運営事業	
					134	化石採集場管理運営事業	
				教育活動への取組	135	秋吉台科学博物館管理運営事業	
					136	秋吉台科学博物館建設基本構想策定事業	
	137				秋吉台科学博物館展示及び普及教育事業		
	138				資料館特別展及び化石館ミニ企画展開催事業		
	139	大仏ミュージアム企画展開催事業					
3-4 ジオパーク活動の推進			ジオパーク活動の推進（ジオパーク推進協議会事業）	140	他地域との交流事業		
				141	美祢ジオパーク学習推進事業（再掲）		
				142	小・中・高等学校出前講座事業		
				143	ジオパーク生涯学習事業		
				144	プロモーション事業		
				145	ジオツアー充実事業		
	146	ジオパーク拠点施設整備推進事業					
	147	ジオサイト整備事業					
	148	Mine秋吉台ジオパークセンター管理運営事業					

2 点検及び評価の実施

まず、第1次評価として所管課で自己評価を行い、その後、教育に関し学識経験を有する3名の点検評価委員出席のもと、点検評価委員会を開催しました。同委員会では所管課により事業の説明を行い、後日、点検評価委員からいただいた知見や評価を活用して教育委員会が最終評価を行い、今後進めていくべき事業の方向性を示しています。

(1) 令和5年度 教育委員会事務事業評価（対象：令和4年度事業）及び今後の方向性

基本目標1 生きる力を高め、将来を担うひとづくり

基本施策1 学校運営の質の向上

1-1 安全で安心して学べる環境の充実

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
小・中学校の適正配置の推進	1	小・中学校適正規模・適正配置推進事業	令和2年3月に策定した「第二次美祢市立小・中学校適正規模適正配置基本方針」に基づき適正化を推進する。第三次適正規模・適正配置基本方針の策定に向け準備を開始する。	0	於福中学校は、令和4年度末をもって閉校し、大嶺中学校に統合した。 第三次適正規模・適正配置基本方針の策定に向け各中学校区において意見聴取を行った。	0	5	7	A	○第二次教育振興基本計画によると、統合に対する理解は6割を超えている。再編された学校が、子どもにとって望ましい教育環境になるとともに、地域の特性や伝統を継承し得る地域の核としての役割が担えるものとなるよう、広く様々な意見を参考にし、第三次適正規模・適正配置基本方針の策定を進めていただきたい。 ○年次的に推進されているが、保護者や地域住民との協議は欠かさずに、丁寧に円滑に実施されたい。	A	現状維持
防災教育の推進	2	学校防災管理体制の充実	学校危機管理マニュアルの見直しや教職員を対象とした研修会を実施し、教職員の危機対応能力の向上を図る。	0	各学校で土砂災害や洪水被害を想定した学校危機管理マニュアルの見直しや専門家と連携した研修を行った。	0	5	9	A	○気候変動に伴う自然災害の激化に対応できるよう強化していただきたい。 ○学校防災管理には、専門家だけでなく地域・保護者と連携・協働した取組が必要。学校危機管理マニュアルの見直しと併せて、ハザードマップや気象庁のキキクルの活用等、より実効性のある研修を実施し、教職員の危機対応能力の向上を図っていただきたい。 ○年々災害も多岐にわたる今日、様々な状況を想定しておくことは重要である。	A	現状維持
	3	児童・生徒の防災意識の高揚	学校危機管理マニュアルの見直しや教職員を対象とした研修会を実施し、教職員の危機対応能力の向上を図るとともに、防災学習を通して児童生徒の防災意識の高揚を図る。	0	危険予測学習（KYT）や避難訓練等の防災学習を実施し、児童生徒の防災意識の向上と危機回避能力の育成を図った。	0	5	9	A	○気候変動に伴う自然災害の激化に対応できるよう強化していただきたい。 ○様々な想定による避難訓練や視聴覚教材等を活用した、より具体的な防災学習を繰り返し実施することで、防災意識の向上と危機回避能力の育成を図っていただきたい。 ○避難訓練の体感は望ましい。	A	現状維持
通学路の安全確保	4	通学路の安全点検	関係機関と連携して合同点検を行い、通学路の安全確保を優先順位を付けて計画的に行っていく。	0	9月に合同点検を実施し、関係機関と現場での協議を行い、優先順位をつけたが対策を行った対策を行った内容については、HPに掲載した。	0	5	10	A	○通学路安全点検や安全マップづくりに児童・生徒の視点が入るように推奨していただきたい。スクールガード活動が地域ぐるみで実施されていることはすばらしい。 ○安全点検の対策内容は、学校だけでなく、地域にも喧伝すると良い。	A	現状維持
教育環境の整備・充実	5	小学校管理事業	市内小学校11校の学校運営維持業務及び予算の配当を行う。	60,037	学校の運営維持業務、適切な予算配当を行った。	58,922	5	8	A	○適切に予算配当をし、効率的な予算執行をお願いしたい。 ○効率的な予算執行であるか、点検も必要。	A	現状維持

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終評価	今後の方向性
							重要度	有効性	評価			
教育環境の整備・充実	6	小学校情報化設備整備事業	GIGAスクール構想により、1人1台端末による子どもの学びを保障できる環境を整備する。	12,124	市内11校の小学校において、電子黒板やタブレット等の購入、フィルタリングソフト及びウイルス対策ソフトの更新により、学校内の情報教育を推進した。 Wi-Fiの接続環境改善を随時行った。 美祢市教育委員会のセキュリティポリシーの策定を行った。	10,787	5	10	A	○児童の個人情報管理を徹底していただきたい。 ○ハード面でのICT環境の整備と併せて、学校のICT化をサポートする体制（支援員の配置等）の充実や、教員の指導におけるICT活用能力の向上を図っていただきたい。 ○ICTの整備は必要。	A	現状維持
	7	小学校教育振興事業	児童の基礎学力を育むための教材の購入を行う。	9,322	市内11校の小学校において、一般教材・体育用教材などを購入した。	9,267	5	8	A	○各校の要望に応じて、各種教材を購入していただきたい。	A	現状維持
	8	小学校就学援助事業	経済的に就学困難と認められる児童の保護者に対して、学校で必要な費用の一部を補助し、義務教育の円滑な実施に資することを目的とする。	10,790	要綱に基づき認定された保護者に、就学援助費を支給した。	9,948	5	10	A	○要綱に基づき、適正に支給していただきたい。 ○適切な支給を。	A	現状維持
	9	小学校通学支援事業	遠距離通学者、通学困難者等の児童に対し、スクールバス等の通学支援の確保又は補助金を支給し保護者負担の軽減を図る。	44,833	スクールバス・タクシーの運行のほか、保護者送迎者等に対し補助金を支給した。	42,482	5	8	A	○公平・適正に支給され、保護者の負担軽減を図っていただきたい。 ○補助金は不公平にならないように配慮されたい。	A	現状維持
	10	小学校施設整備事業	学校施設の維持補修及び整備により、老朽化の抑制や児童の安全・安心な教育環境を確保する。	21,545	大嶺小・大田小の特別教室の空調設置工事を行った。	21,511	5	8	A	○適正規模・適正配置推進事業と整合を取って進めてほしい。 ○各校の実情・要望に応じて、計画的に安全・安心な教育環境を確保していただきたい。 ○教育環境の整備は必要なことである。	A	現状維持
	11	中学校管理事業	市内中学校6校の学校運営維持業務及び予算の配当を行う。	38,673	学校の運営維持業務、適切な予算配当を行った。	37,474	5	8	A	○適切に予算配当をし、効率的な予算執行をお願いしたい。 ○効率的な予算執行であるかどうか、点検も必要。	A	現状維持
	12	中学校情報化設備整備事業	GIGAスクール構想により、1人1台端末による子どもの学びを保障できる環境を整備する。	7,147	市内6校の中学校において、タブレット等の購入、フィルタリングソフト及びウイルス対策ソフトの更新により、学校内の情報教育を推進した。 Wi-Fiの接続環境改善を随時行った。 美祢市教育委員会のセキュリティポリシーの策定を行った。	5,717	5	10	A	○生徒の個人情報管理を徹底していただきたい。 ○ハード・ソフト両面でのICT環境の整備を推進していただきたい。 ○ICTの整備は必要。	A	現状維持

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終評価	今後の方向性
							重要度	有効性	評価			
教育環境の整備・充実	13	中学校教育振興事業	生徒の基礎学力を育むための教材の購入を行う。	7,226	市内6校の中学校において、一般教材・体育教材の購入のほか、吹奏楽用楽器などを購入した。	7,037	5	8	A	○各校の要望に応じて、各種教材を購入していただきたい。 ○教材の購入は必要であろう。	A	現状維持
	14	中学校就学援助事業	経済的に就学困難と認められる生徒の保護者に対して、学校に必要な費用の一部を補助し、義務教育の円滑な実施に資することを目的とする。	10,254	要綱に基づき認定された保護者に、就学援助費を支給した。	9,450	5	10	A	○要綱に基づき、適正に支給していただきたい。 ○適切な支給を。	A	現状維持
	15	中学校通学支援事業	遠距離通学者、通学困難者等の生徒に対し、スクールバス等の通学手段又は補助金を支給し保護者負担の軽減を図る。	48,786	スクールバス・タクシーの運行のほか、保護者送迎者等に対し補助金を支給した。 於福中の統合に伴うスクールバス2台を購入した。	44,697	5	8	A	○公平・適正に支給され、保護者の負担軽減を図っていただきたい。 ○補助金は不公平にならないように。バス購入はやむを得ないが、有効活用の方策を検討されたし。	A	現状維持
	16	中学校施設整備事業	学校施設の維持補修及び整備により、老朽化の抑制や児童の安全・安心な教育環境を確保する。	57,288	美東中・秋芳中の校舎壁面補修工事及び大嶺中・美東中の特別教室の空調設置工事を行った。 秋芳中の仮設テニスコート整備工事を行った。	56,661	5	8	A	○適正規模・適正配置推進事業と整合を取って進めていただきたい。 ○各校の実情・要望に応じて、計画的に安全・安心な教育環境を確保していただきたい。 ○教育環境の整備は必要なことである。	A	現状維持
	17	私学振興運営費補助事業	私立高等学校の教育環境整備、運営費を補助することにより、私学の教育内容の充実・向上を図る。	13,800	私学振興のため、成進高等学校に補助金を交付した。	13,800	4	6	B	○補助は必要だが、一定の基準に基づいて実施すべきと考える。 ○補助対象事業や補助額の算定根拠等の明確化と情報公開が求められる。 ○私学振興のため必要であるが、補助対象事業のチェックも必要。	B	期間を定めて見直し
安全・安心な学校給食の提供	18	給食調理場管理運営事業	安心・安全な学校給食を提供するため、施設の維持・管理を行う。	93,613	6か所の学校給食共同調理場において、学校給食の安全確保に伴う施設整備等を行い環境整備の充実を図った。	87,588	5	8	A	○学校給食センター基本計画によると、令和10年度末まで一部の共同調理場は現施設で稼働予定とのこと。安全・安心な給食の提供に当たっては、ゾーニングやドライ運用等で、工夫や調理員の努力による対応が続く。学校給食センターの施設整備と並行して共同調理場の維持管理面の環境整備も図っていただきたい。 ○安心・安全な給食提供のため、施設整備は必要である。	A	現状維持
	19	給食センター整備事業	学校給食調理場の老朽化に伴い、学校給食センター整備に向けた検討を行う。	187,744	学校給食施設整備の具体的な方向性を示す美祢市学校給食センターの基本設計及び建設に向けた実施設計を策定した。	145,499	5	9	A	○将来的に安定した運営に努めていただきたい。 ○学校給食は児童・生徒の健やかな成長と食育の推進に大きな役割を果たしている。共同調理場の現状と課題、児童・生徒数の減少等々を考慮した基本設計や実施設計の策定は時宜を得ている。整備事業の推進に当たっては、市民への一層の広報に努めていただきたい。 ○旧小学校の解体費も含み膨大な支出となっているが、給食センターの建設はやむを得ないだろう。	A	事業拡大

1-2 活力ある学校づくりの推進

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額(千円)	令和4年度実施状況及び成果	決算額(千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終評価	今後の方向性
							重要度	有効性	評価			
学校評価・教職員評価などを活用した総合力の向上	20	学校活動応援事業(新しい学校を創る美称コミュニティ・スクール推進事業)	各校の学校運営協議会を母体として、学校と保護者、地域住民が共に知恵を出し合い、協力して子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を推進する。	1,360	学校、保護者、地域住民が協力して子供たちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を推進した。学校評価を基に学校運営の改善を図り、その評価結果や取組を「便り」やHPにより公開し、支援の輪を広げている。各学校で特色ある取組を推進するためにNo.20の一部、No.29、No.30、No.32の事業の統合について検討している。	1,024	5	9	A	○特定の分野に限らず、広く取り組んでいただきたい。 ○コミュニティ・スクールの指定により、学校・家庭・地域が連携・協働して小中9年間の子どもの学びや育ちを支援する取組は大きな成果を上げている。しかし、学校評価や様々な媒体による学校からの情報発信も形骸化されたような感があり、一層の深化と広がりが見られないように思う。 ○文面が昨年通りで訂正されていない。N029は28、30は29、32は31であろう。取り組みは「便り」などで支援の輪を広げているというがどうか。実際の広がりが見られない。	A	運営手法等の見直し
	21	指導業務(指導経費)	小・中学校教育研究会の補助等、教職員に係る研修会の支援や各種指導業務を行い学校運営、教職員の資質の向上を図る。	2,489	新型コロナウイルス感染症の影響により、小・中学校教育研究会の活動、教職員に係る研修会等の一部中止、オンラインによる開催など開催方法の変更を余儀なくされた。小・中学校教育研究会の在り方について校長会と協議し、経費に対する支援の一部を廃止した。	1,753	5	9	A	○教職員の資質能力の向上は、学校教育の正否を左右する重要な要素である。対面であれ、オンラインであれ、各種研修会や校内研修の機会が十分にもたれるよう支援を継続していただきたい。 ○教職員の資質向上のため、研修は必要であろう。	A	現状維持
学校評価・教職員評価などを活用した総合力の向上	22	教育振興経費	小・中学校の文化、芸術、体育活動や中高連携教育に関わる経費の一部を負担するとともに、経済的理由のため進学に恵まれない又は就学困難な者に貸付を行うなど、美称市出身の子供達の教育環境の充実に資する。	8,303	新型コロナウイルス感染症の影響により内容を縮小する活動も見られたが、概ね実施することができ、充実した教育環境を確保することができた。	7,116	5	9	A	○充実した教育環境を確保・維持していただきたい。 ○新型コロナウイルス感染対策で、事業費が大幅に縮小しているが、やむを得ないものと思う。	A	現状維持
これからの学校教育を担う教職員の資質能力の向上	23	指導業務(世界に羽ばたく人財育成推進事業)	教職員研修会を通して、授業力や指導力等、教師の資質・能力と総合力の向上を図る。	160	研修の機会を通して教師の授業力、指導力等資質向上を図るために、1月に美称市教育公開セミナーを開催した。児童生徒の自己決定に基づく教育活動の重要性について学ぶ機会となった。	98	5	9	A	○研修の機会と場を確保して、教員の指導力・授業力の向上を図ることが大切である。	A	現状維持
	24	スクールサポートスタッフ配置事業	教員が担うべき業務に専念し、子供と向き合う時間を確保するため、小中学校に学校業務支援員や部活動指導員を配置し、教員の負担軽減を図る。	7,936	市内小中学校14校に学校業務支援員9名(兼務あり)、中学校2校に部活動指導員を配置した。学校業務支援員や部活動指導員の活用が進んだ結果、教員の時間外在校等時間が縮減された(令和元年度月平均50.6時間→令和4年度月平均41.6時間 ※令和3年度は40.5時間。令和3年度から令和4年度は微増)。	7,766	5	10	A	○教員が本来の業務に専念でき、子どもと向き合う時間が確保できる等、教員の働き方改革の一助となる。令和7年度から平日の学校部活動も地域クラブ活動として展開する(目指す)等、一層の支援員・指導員の増員と教員の負担軽減が図られることを期待する。 ○支援員、部活動指導員の体制は、昨年と同じであるが、教員の時間外が若干増えており、業務の内容や体制を検討する必要がある。	A	事業拡大

主 な 取 組	事業 番号	事 業 名	事 業 内 容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
ICT活用等による 教育力の向上	25	ICT教育推進事業	ICTを活用した遠隔教育等により児童のコミュニケーションの活性化や学習意欲の向上を促し、様々な体験や専門的な授業を取り入れることによって多様性のある学習や質の高い教育を実現する。	5,435	年間3回の研修会の開催や必要に応じてICT支援員と学校に訪問して研修会や学習支援を行った。また、自主研修会を月2回程度開催し、教職員のスキルアップを図った。	5,039	5	10	A	○教職員誰もが一定のレベルのスキルを身に付けるよう強化していただきたい。 ○学校のICT環境の整備、教員のICT活用能力の向上に資する研修機会と場の確保、ICT支援の充実を図っていただきたい。 ○3年度から事業拡大が行われて予算も大幅に増額されたが、ICTの活用教育は大切である。	A	現状維持
みね型地域連携教育の推進	26	学校活動応援事業（新しい学校を創る美称コミュニティ・スクール推進事業）	【No20再掲】		—	—	—	—		—	—	—
	27	みね型地域連携教育推進事業	コミュニティ・スクールを核とする地域ネットワークの中で、学校・家庭・地域が連携・協働することで、小中9年間の子どもの学びや育ちを支援し、地域の教育力の向上と地域の活性化を図る。	1,033	指導主事が、各学校運営協議会において課題解決に向けて助言するとともに、小中一貫教育を視野に入れた各中学校区での9年間の学校地域連携カリキュラム作成を支援するとともに学校運営協議会を中学校区で統一できた。	572	5	10	A	○中学校区を一つの単位とする小中一貫教育を視野に、学校地域連携カリキュラムを作成し、ふるさとに誇りと愛着をもつ子どもの育成を地域社会総がかりで支援する取組はすばらしい。実践に当たっては、地域にしっかり広報し、着実に推進していただきたい。 ○小中一貫で中学校区の運営協議会が出来たことは望ましいが、地域との連携が出来ているのかが課題であろう。	A	現状維持

2-1 未来への飛躍を実現する人財の育成

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
地域連携カリキュラム等の推進	28	ふるさと学習 充実事業	コミュニティ・スクールの取組などの学校・家庭・地域が連携した活動において、それぞれの地域の人的・物的資源を活用することでふるさとについて学ぶ機会を充実させる。	0	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域と連携した活動への制約はあったが、感染対策を十分に行った上で、できることに取り組んだ。 各学校で特色ある取組を推進するためにNo. 20の一部、No. 28、No. 29、No. 31の事業の統合について検討している。	0	5	9	A	○関連する事業と一体的に進められたい。 ○実践に当たっては、地域にしっかり広報し、統合して着実に推進していただきたい。 ○人的・物的資源は地域のボランティアが無報酬で活用されているようだが、このままだと将来行き付くと思われるので、予算化も必要であろう。	A	運営手法等の見直し
	29	学校活動応援事業（美祢ジオパーク学習推進事業）	市内小・中学校のジオ学習を支援することで、生まれ育った地域や伝統・文化への理解を深め、ふるさとへの誇りと愛着をもち、それらを継承・発展させようとする児童生徒を育てる。 【No20再掲】	700	世界ジオパーク推進課と連携し、市内小・中学校のジオ学習を支援することで、生まれ育った地域や伝統・文化への理解を深めた。 各学校で特色ある取組を推進するためにNo. 20の一部、No. 28、No. 29、No. 31の事業の統合について検討している。	501	5	9	A	○関連する事業と一体的に進められたい。 ○実践に当たっては、地域にしっかり広報し、統合して着実に推進していただきたい。また、学校のジオ学習は、地域や世界ジオパーク推進課との連携により、より深い学習が可能になると考える。 ○教室の中ではなく、地域に出向いて体験することが大切である。N028との統合が検討されているようだが、29のみ予算化されているのは不思議だ。	A	運営手法等の見直し
キャリア教育の推進	30	発達段階に応じたキャリア教育支援事業	小・中9年間の学びと夢をつなぐキャリアアルバム作成、活用し、発達段階に応じた系統的、計画的なキャリア教育を実践する。	0	コミュニティ・スクールとしての取組の深まりにより、各中学校区において、小中連携による系統的・計画的なキャリア教育の充実が図られた。	0	4	8	A	○小規模校のメリットを生かしたきめ細やかな対応をお願いしたい。 ○小中9年間を見据え、発達段階に応じたキャリア教育の充実を支援していただきたい。 ○発達段階を見据えた教育は大切だ。	A	現状維持
世界へはばたく人材育成の推進	31	学校活動応援事業（特色ある学校活動支援事業）	市内全小・中学校を対象に、特色ある学校活動を支援し、ふるさとを愛し、誇りにする児童生徒を育てる一助とする。 【No20再掲】	400	マーチングや地域の伝統的な行事等に取り組んでいる学校の活動経費を支援することで特色ある教育の推進につながった。 各学校で特色ある取組を推進するためにNo. 20の一部、No. 28、No. 29、No. 31の事業の統合について検討している。	381	4	8	A	○関連する事業と一体的に進められたい。 ○No. 28、No. 29の事業の統合とは、（特色ある教育活動のうち、マーチングや太鼓等は）視点が異なるように思う。 ○特色ある学校支援事業は有意義である。N020の一部、N028、N029との統合は短絡的で、内容が違うと思う。	A	現状維持

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
学力向上に向けた取組の推進	32	学校活動応援事業（新しい学校を創る美称コミュニティ・スクール推進事業）	【No20再掲】		—	—	—	—	—	—	—	—
	33	みね型地域連携教育推進事業	【No28再掲】		—	—	—	—	—	—	—	—
	34	生きた英語力育成推進事業	外国語指導助手（ALT）が英語授業の指導に関わることにより、英語指導の充実を図り、児童生徒の英語力の向上を図る。	23,946	ALT 5名を各校に配置して、教職員の授業力の向上や児童生徒の英会話力の向上を図ることができた。	21,919	5	9	A	○児童生徒の英会話の機会を一層増やしていただきたい。 ○ALTが英語授業の指導に関ることにより、教員の英語指導の充実や子どもの英会話力が向上する。訪問回数を増やす等、ALTの派遣事業の更なる充実が望まれる。 ○軌道に乗っている。	A	現状維持
学力向上に向けた取組の推進	35	MINEグローバル人財育成推進事業	市内小学生（5・6年生）及び市内中学生（全学年）を対象にしたイングリッシュクラブやイングリッシュビレッジ等を通して、豊かな国際感覚と英語コミュニケーション能力を備えた児童生徒の育成を図る。	2,158	イングリッシュクラブでは小学生20名、中学生20名を対象に年17回、イングリッシュビレッジを希望者全員を対象に年3回実施した。児童生徒の英語力と英語に対する興味・関心を高めることができた。	1,571	5	9	A	○児童生徒の英会話の機会を一層増やしていただきたい。 ○グローバルな人材を育成するため、英語に触れる機会を確保し、英語を使ったコミュニケーション能力の向上を図っていただきたい。 ○児童生徒の英語力向上に役立っている。	A	現状維持
	36	公設塾設置運営事業	学校と連携し、学校での教育を補完する形で、地域の方々の協力をいただきながら、子どもたちの好奇心を引き出し、新しいことに挑戦する力を育てるため、公設塾を設置する。	11,100	4つの中学校から集まった異学年の生徒が同じ空間で地域の大人等と活動することを通して、世代や肩書を超えて協働する力を養った。入塾者数は60名で、関わってくださる地域の方の数も増加している。	10,289	5	10	A	○有意義な事業とは思いますが、一般市民への周知を一層強化していただきたい。 ○入塾者の勧誘・選考等の実態をよく把握していないが、実施に当たっては十分公平性を確保していただきたい。 ○公設塾は入塾者数、地域の協力者数ともに増加傾向にあり、子どもに生きる力を育成する一助となり得ているように思う。更なる充実した運営を期待する。また、広報誌等で活動の様子等の周知を継続していただきたい。 ○入塾者数が増加しているのは好ましいことだが、授業内容を市民にも発信していただきたいものである。	A	現状維持
	37	美称魅力発掘隊	総務省の地域おこし協力隊制度を活用し、やる気に満ちた人材を任用することで、公設塾の運営と、公設塾と学校をつないだ活動を活性化させる。	16,926	公設塾と学校や地域のつなぎ役を担うコーディネーター1名及び公設塾のスタッフ3名を任用した。	15,155	5	9	A	○公設塾のスタッフやコーディネーターの任用により、活動の活性化や充実が図られ、更なる子ども達の生きる力の育成を期待したい。 ○地域おこしを主題としているので、どんな人材が任用されたのか、広報などで紹介すべきであろう。	A	現状維持

2-2 学ぶ意欲と確かな学力の育成

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
「教えて 考えさせて 定着させる授業」の推進	38	学力向上対策プロジェクト事業	「教えて、考えさせて、定着させる授業」づくりを中心とした授業改善に各学校が取り組むとともに、児童・生徒の実態把握とともに、校内研修の活性化を通して教師の授業力を高め、児童・生徒の学力の向上を図る。	703	児童・生徒の実態把握や授業改善への取組の検証のために、小・中学生に対して各種検査を行った。また、各種研修会や各校への指導主事訪問をとおして、教員の授業力向上を図った。	534	5	10	A	○各種研修会や授業研究、学習定着状況の把握等を通して、授業改善を図り、児童・生徒の学力向上に繋がっていただきたい。	A	現状維持
	39	世界に羽ばたく人財育成事業	【No23再掲】		—	—	—	—	—	—	—	—
個に応じた指導の推進	40	学力向上対策プロジェクト事業	【No38再掲】		—	—	—	—	—	—	—	—
	41	個別最適化学習推進事業	AIを搭載したアダプティブラーニング教材を活用した授業改善を推進し、一人一人の児童生徒に応じた学びを実現する。	8,551	AIを搭載した5教科のアダプティブラーニング教材を使用し、個別の情報を収集・蓄積・解析することにより、児童生徒一人ひとりの理解度に応じた最適な問題を出題し、個別最適な学習を実施した。	8,294	5	9	A	○効果を検証の上、一層充実していただきたい。 ○学習個人カルテや適応性のあるIT学習教材を活用した個に応じた指導は、全ての児童・生徒に分かる・できる喜びを実感させ、学習意欲や学力の向上に繋がる。令和3年度より4年度は予算額・決算額ともに僅かながら減額しているが、複式学級の多い本市の実情からも、本事業は今後もしっかり予算を確保されることを望む。	A	現状維持
予習・復習などの家庭学習の充実	42	学力向上対策推進事業	【No38再掲】		—	—	—	—	—	—	—	—

2-3 思いやりに満ちた豊かな心の育成

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額(千円)	令和4年度実施状況及び成果	決算額(千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終評価	今後の方向性
							重要度	有効性	評価			
人権教育の充実	43	教職員の人権尊重意識の醸成	人権教育ふれあい講座や人権教育に関する研修会を行うことで教職員の学習機会を充実させる。また、校内研修や人権教育参観日、人権教育講演会等を実施し、教職員の人権尊重意識を向上させるとともに、保護者や地域の方への啓発を行う。	0	人権教育ふれあい講座(全6回)には、のべ196人の学校関係者が参加。新型コロナウイルスの感染予防を徹底し、開催方法を工夫することで、人権教育参観日や講演会は概ね予定通り実施することができた。視聴覚教材を活用するなどして校内研修を充実させることができた。	0	5	9	A	○教育活動を通して子どもに人権尊重の意識を醸成する立場の、教職員自らの人権感覚を磨く研修は、大変重要である。人権教育ふれあい講座に参加した教職員数は令和3年度より延べ人数で30名近く増加している。オンライン講習等、参加しやすい形態での研修会も増やしていくことが望ましい。 ○人権教育の講座や研修会は、意識向上の為に必要なことである。	A	現状維持
	44	人との関わりを通じた学びの重視	異学年や異校種の児童生徒、高齢者や障害のある人、外国人など様々な人と関わる中で、相手の気持ちに対する想像力や相互理解のためのコミュニケーション能力の育成を図る。	0	新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、感染防止対策を徹底したり、ICT機器を活用し、オンラインで話を聞いたりすることで、多様な人と関わる学習活動を行うことができた。	0	5	9	A	○コロナ禍でやむを得なかったと思うが、コミュニケーション能力の向上を図るには実際に顔を突き合わせる事が大切と考える。 ○自分同様他者を大切にすることは、相手を知り、理解し、よさを認めることからスタートする。そのツールとなるのが、コミュニケーション能力である。工夫された活動や様々な機会を設定して、多様な人と交流することで、コミュニケーション能力の育成を図るよう努めていきたい。 ○コロナ禍の中で、ICTを利用したコミュニケーションは評価できる。	A	現状維持
道徳教育の推進	45	道徳教育の推進	「考え、議論する道徳」への転換を目指し、道徳科の特質に応じた「主体的・対話的で深い学び」を実現することで、思いやりに満ちた豊かな心の育成を図る。	0	各校での校内研修の実施と指導主事による訪問指導などにより、「考え、議論する道徳」への転換が図られつつある。道徳科の充実と共に、学校教育全体で道徳教育を進めている。	0	5	9	A	○現状をよく把握していないが、保護者も一緒に研修する機会を設けると、より効果的ではないかと考える。 ○各校では、校内研修や研修会等を通して真摯に「考え、議論する道徳」への転換を図り、子ども達の道徳的実践力を培おうと努めていることと思うが、教科化されてからまだ日も浅く、一層の研修の充実が望まれる。 ○思いやりのある豊かな心を醸成する道徳教育は必要である。	A	現状維持
体験活動の充実	46	特色ある学校活動支援事業	【No31再掲】	—	—	—	—	—	—	—	—	—
読書活動の充実	47	学校図書館充実事業	小・中学校図書館に対し、「読書センター」「学習情報センター」としての機能向上を目的に、図書館の整備や読書指導を行う学校図書館担当職員を配置する。	2,733	5名の学校図書館担当職員を配置し、各学校を巡回支援することで読書活動の推進や図書館の充実につながった。	2,593	5	9	A	○読書活動は、「適書を適者に適時に出会わせる」ことによって、豊かな人間性を培っていく(読書の人間形成に与える効果は、個性の違いによっても、発達の時期によっても、その時その時の気持ちの持ちようによっても、決して一定しているわけではない)。司書教諭をサポートする学校図書館担当職員の配置は、子どもの豊かな人間性の形成の一助となり得る。担当職員の一層の充実が望まれる。 ○読書による教育効果は不変です。図書館の整備に力を入れて欲しい。	A	現状維持

2-4 社会を生き抜く健やかな体の育成

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
体力向上の推進	48	体力向上の推進	児童生徒一人ひとりの運動に対する関心や経験、体力の状況を把握し、教材や学習過程を工夫する等、実態を踏まえた授業の改善と充実を図る。	0	新体力テストの結果を踏まえ、学校としての課題を解決するために、体育の授業における学習過程を工夫すると共に、多くの学校が業間時間も活用し、体力向上に努めた。	0	5	9	A	○学校としての体力・運動能力面の課題解決に向け、「1校1取組運動」を定めて、授業を始め、業間時間等で意図的計画的に取り組むことが必要なのは・・・。また、外遊びの奨励にも努めていただきたい。	A	現状維持
	49	地域・家庭へ啓発活動	学校だより等により、児童生徒の体力の状況や学校での取組について知らせることにより、家庭や地域社会の関心を高め、学校以外でも運動の機会が確保されるよう啓発する。	0	新体力テストの結果を学校だよりや学校安全保健委員会等で保護者と共有し、家庭と協力して体力についての課題の解消に努めた。	0	4	8	A	○学校だよりや学校安全保健委員会等の機会を捉えて、体力についての課題を保護者と共有し、課題解決に向けた家庭との連携・啓発が望まれる。	A	現状維持
基本的生活習慣の確立	50	基本的生活習慣の確立事業	「美祢市生活習慣ガイドライン」を活用し、朝食をしっかりとる習慣づくり、就寝時刻を考えた帰宅後の生活リズムづくり、適切な睡眠をとる習慣づくり等を家庭と連携して推進する。	0	「早寝・早起き・朝ごはん」や「メディアコントロール」について、家庭と連携して調査を行い、改善に取り組んだ。	0	5	9	A	○家庭との連携を一層深め、基本的生活習慣確立の重要性を啓発するとともに、実践化に努めていただきたい。 ○家庭に差があると思われるので、連携は必要なことである。	A	現状維持
食育の推進	51	市学校給食栄養士部会研修会	地産地消等の食育を推進するために、栄養教諭を対象に研修会を実施し、実践事例や課題の共有を行う。	33	年間3回の研修会を実施し、各調理場での実践を共有するとともに、美祢市全体で取り組むべき課題について協議することができた。	22	4	8	A	○研修や栄養教諭間の情報共有を通して、安全・安心で栄養バランスのとれた給食の提供に努めていただきたい。	A	現状維持
	52	食材の地産地消推進事業	学校給食における地産産食材の使用を推進する。	0	J Aや地元生産団体の食材を使用した。 特に地産産給食週間中は地産地消の取組を積極的に推進した。	0	5	9	A	○新鮮な地産産食材を使用し、地産地消の食育を推進していただきたい。 ○将来センター化となっても、地産地消の取り組みは継続されたい。	A	現状維持
	53	食育ネットワーク会議	幼稚園と小学校、中学校と関係機関が連携して、食育に関する情報共有を行い、目標設定と具体的取組の計画を立てる。	0	年間2回の研修会を行い、幼小中の連携が行えるよう情報共有や各立場での役割の確認を行った。	0	4	8	A	○研修や情報共有を通して、本市の食育を一層推進していただきたい。	A	現状維持
学校保健の推進	54	市学校保健会	医師と連携して、児童生徒の健康維持に向けた啓発活動や予防、治療の推進を行っていく。今年度は、「歯と口の健康」に関する標語の募集を行い、歯の健康に関する意識の向上を図る。	100	「歯と口の健康」をテーマとしたポスターの募集を行い、歯の健康に関する意識の向上が図れた。また、会誌を作成して、今年度の取組についてまとめた。	100	4	8	A	○子ども達の健康を守り、維持していくために、市共通のテーマを定め、市全体で様々な取組を継続していただきたい。	A	現状維持

2-5 一人ひとりを大切にする教育の推進

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
いのちを守る教育の推進	55	安全教育の推進	学校安全の「災害安全」「交通安全」「生活安全」の各領域において、児童生徒1人一人に自分の命は自分で守る意識を育てる。	0	各校において、学校安全に関するマニュアルを作成して、学校の実情に合わせた安全教育を進めた。	0	5	9	A	○児童生徒に限らず、全国的に自転車に関わる悲惨な事故が発生しているため、自転車の正しい運転について十分教育していただきたい。 ○家庭・地域と密接に連携し、危機管理意識を育てることにより、行動の変容・実践に繋げていただきたい。	A	現状維持
	56	いじめ等生徒指導対策事業（いじめ問題対策事業）	市いじめ問題対策協議会及び学校安全・生徒指導連絡協議会を実施して、市内の児童生徒に現状や課題について情報共有を行う。今年度は、1人1台端末の貸与により発生が懸念される「ネット環境を使ったいじめ」についての注意喚起を行う。	443	年間2回協議会を実施して、今年度は、不登校の対策について、関係機関や生徒指導主任と協議を行うことができた。	28	4	8	A	○日常的な啓発・指導が大切と考える。 ○いじめの根底には、人権尊重の意識の低さが考えられる。未然防止・早期発見・早期対応には、学校・家庭・地域・関係機関と十分な情報共有を行い、一丸となって取り組んでいただきたい。 ○常日頃からの注意喚起が大切である。	A	現状維持
不登校ゼロに向けた取組	57	いじめ等生徒指導対策事業（子ども自立支援事業）	スクールサポートチームを編成し、学校訪問を行い、児童生徒に関する情報共有と支援体制の確認を行う。また、SCやSSWの派遣を必要に応じて行う。	1,906	年間2回の学校訪問を行い、学校が抱える悩みについて、協議や関係機関と接続することができた。	1,904	5	10	A	○活動実態をよく把握していないが、年間を通じていつでもチームがサポートする体制を構築されたい。 ○関係機関と連携し、情報共有や専門家の派遣等、支援体制の確立に努めていただきたい。	A	現状維持
	58	いじめ等生徒指導対策事業（心の広場充実事業）	適応指導教室「心の広場」で不登校児童生徒の居場所作りに努めるとともに、通室の困難な児童生徒に関しては、学校へ訪問しての支援を行う。	2,755	小学生4名、中学生6名が通室をし、学力やソーシャルスキルの向上、生活リズムを整えることができた。	2,605	5	10	A	○「心の広場」をさらに充実し、不登校児童生徒の居場所づくりに一層努めていただきたい。 ○「心の広場」で、不登校児童生徒の対応がなされているのは重要である。	A	現状維持
特別支援教育の推進	59	特別支援学級支援事業	心身に障害がある児童に対して、学校生活を送る上で必要な生活面での介助及び学習補助を行う。	4,335	特別な支援を要する児童生徒の在籍する小中学校4校に6名の介助員を配置し、担任と連携しながら学校生活を送る上で必要な支援がきめ細やかに行われた。	4,289	5	10	A	○介助員の配置により、安全安心で、充実した教育環境を確立していただきたい。 ○担任と介助員の連携で、成果が上がっていると思う。	A	現状維持
	60	学級支援補助教員活用事業	一人ひとりの児童生徒が集団の中で生活習慣・学習習慣を身につけることができるよう、特別な配慮を要する児童への対応を含め、きめ細かな指導体制を充実し、学校運営の安定化を図るために支援員を配置する。	12,363	支援員を14人配置した。各学校において、支援員が担任・担当と連携し、配慮を必要とする児童生徒に対してきめ細かく支援をしている。	11,801	5	10	A	○支援員の配置により、児童生徒へのきめ細やかな指導ができ、効果が上がっている。引き続き事業の継続を期待する。 ○担任と支援員の連携で、成果が上がっていると思う。	A	現状維持

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の方向性
							重要度	有効性	評価			
特別支援教育の 推進	61	夢をつなぐ特別支援充実事業	障害のある児童・生徒が、地域で学び、地域で就労し、一人ひとりの夢の実現が図られるよう美祢市全体の特別支援教育の充実を図る。	1,826	特別支援教育連携推進員による幼稚園・保育園等関係機関との連携や、夢をつなぐ特別支援教育サポートチームによるケース検討会議を開催することで、特別な配慮を要する児童生徒への支援のあり方を検討したり提案したりすることができた。	1,492	5	9	A	○特別な配慮を要する児童生徒の幼保・小・中のなめらかな接続は、「個別の教育支援計画」においても重要である。また、一人ひとりの夢の実現を図る上でも、支援の在り方を検討・提案することは大変有意義なことである。すばらしい取組だと考える。	A	現状維持
	62	通級指導教室地域コーディネーターによる巡回訪問	学校の支援のために、特別支援教育の専門的な知識を有する「地域コーディネーター」が学校を巡回訪問し、児童生徒一人ひとりの実態に応じた対応について指導・助言を行う。	0	市内小・中学校17校に地域コーディネーターが訪問し、各校の特別支援教育の状況を把握し、児童生徒の支援について指導・助言を行った。	0	5	9	A	○インクルーシブ教育の取組において、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、合理的配慮を行うためにも、特別支援教育の専門的な知識を持つ地域コーディネーターとの連携は、非常に心強いと思われる。	A	現状維持
	63	特別支援教育推進事業	障がいのある児童・生徒がより専門的な教育が美祢市で受けられるよう、分教室に通学する児童・生徒の送迎を行う。	8,000	県立宇部総合支援学校美祢分教室に通学する児童・生徒の通学支援のため、スクールバスを運行した。	6,773	5	9	A	○市内で教育が受けられるように、通学支援を継続していただきたい。 ○市内に教室があることは、保護者も安心でき、送迎支援の成果はある。	A	現状維持

3-1 家庭教育への支援

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
就学前教育の支援	64	市教育支援委員会	教育委員会と他の部局、関係機関等で子どもの適正な就学について協議する。	218	年3回の教育支援委員会を開催し、校内教育支援委員会の結果を基に、提出された資料と地域コーディネーター等からの情報を参考にして、適正な就学についての協議を行った。	150	5	9	A	○関係者等からの情報を共有し、適正な就学に繋げていただきたい。	A	現状維持
	65	教育相談	専門家を交えた相談会を実施することにより、障害を早期に発見し、個に応じた指導の在り方を支援する。	5	7名の幼児・児童・生徒についての相談があり、保護者の思いに寄り添いながら医師等専門家の意見を交えた助言を行った。	0	5	9	A	○専門家の意見や適切な助言は、保護者にとって子育ての大きな支えとなる。意義のある取組だと思う。 ○発達障害かどうか、専門家の意見や助言は保護者の安心感につながる。	A	現状維持
支援のネットワークづくり	66	市地域自立支援協議会	課題を抱える家庭に対する相談体制を整えることによって、乳幼児期から青年期まで途切れることのない支援を行う。	0	児童相談所や市の福祉部局、教育委員会事務局、必要に応じてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどが、保育者や幼稚園、学校と連携して、課題を抱える家庭の支援を行った。	0	5	9	A	○各機関や専門家と連携して、引き続き課題を抱える家庭を支援していただきたい。 ○関係機関が連携して家庭を支援することは必要である。	A	現状維持
親の育ちを応援する学びの機会の充実	67	家庭教育支援チーム	保護者に対して家庭教育や子育ての支援を行う。	90	家庭教育支援チーム「寄り添い応援隊」として就学時健診や中学校入学説明会で保護者との交流を行った。また、保護者同士の交流の場を設けた。	72	5	9	A	○機会を捉えて、家庭教育や子育てについて支援を継続していただきたい。 ○保護者が気軽に参加できるように。	A	現状維持

3-2 地域連携の体制づくり

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
地域と学校が協働する地域づくりの推進	68	地域学校協働活動推進事業	「地域協育ネットの充実」放課後子ども教室の実施をとおり、学校と地域とが協働して子どもたちを育むと同時に、保護者や地域住民、各機関、団体との間での連携やつながりづくり、地域の活性化や子どもたちの郷土愛の醸成につなげる。	2,010	放課後子ども教室、全14教室で計131回実施した。参加児童数は、延べ2,320人。 6地域協育ネット(地域学校協働活動)の取組を支援した。	1,467	5	9	A	○子ども達の安心・安全な居場所づくりとともに、地域をあげて子ども達を育む取組を継続して支援していただきたい。 ○子供の居場所づくりは、今後も継続して取り組んでいただきたい。	A	現状維持
スクールガードの充実	69	地域ぐるみの学校安全体制整備の取組	スクールガードによる登下校の見守り活動や通学路の安全点検、安全マップづくりなどの取組により、学校、家庭、地域が連携した児童生徒の安全体制を整える。	0	8月に各校において、通学路の安全点検を行い、改善が必要な箇所について、専門機関と協議し、緊急度に応じて必要な対策を行った。保護者や地域ボランティアによる見守りにより、児童生徒の登下校における安全を確保した。	0	5	9	A	○登下校の見守りや安全点検等、子ども達の安全・安心な通学を確保していただきたい。 ○通学路に対する地域見守り隊の意見なども反映されて、進捗している。	A	現状維持

基本目標2 生涯にわたり豊かな心と体を育む環境づくり

1-1 学ぶ機会の提供と充実

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
人権学習の推進	70	人権教育組織推進事業	人権教育推進のため人権推進委員会を開催する。人権教育啓発作品の審査を行う。各種大会へ参加する。	195	人権教育推進委員会を2回開催し、人権教育・啓発の取組について方針や内容を確認した。	158	5	9	A	○さらに市民への啓発に努め、人権尊重の意識を高めていただきたい。 ○人権教育啓発は、恒常的なものである。	A	現状維持
	71	人権教育地区推進大会開催事業	人権教育推進のため各地区で人権教育推進大会を開催する。	85	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、伊佐地域における地区懇談会は中止としたが、推進大会については、大嶺、伊佐、厚保、於福で開催した。	38	5	8	A	○各地域で推進大会が開催されることが望ましいが、一部地域での開催のようである。地域ごとの開催が難しいようなら、市全体で開催してはどうだろうか。	B	運営手法等の見直し
	72	人権教育視聴覚資料整備事業	人権教育推進のためのDVD等視聴覚教材を購入する。	80	DVD「夕焼け」を購入した。	80	5	10	A	○新たに購入したDVDの周知を図ることで、多くの活用を促していただきたい。 ○教材の整備は必要で、活用されることを望む。	A	現状維持
	73	人権教育講座開催事業	専門の講師を招き、市民及び市役所職員、教職員等を対象とした人権教育講座を開催する。	128	人権教育ふれあい・リーダー講座を6回開催し、543人の参加があった。	125	5	9	A	○多様な人権課題について、講師や講座内容を工夫して継続していただきたい。オンライン形式の講座や開催時間の工夫もあり、とても参加しやすいと思う。 ○講座の開催は継続されたい。	A	現状維持
公民館活動の充実	74	公民館管理運営事業	生涯学習の地域の拠点である公民館の各種教室、講座、行事の企画運営等を行う。	46,494	13公民館の管理運営を行った。	45,525	5	8	A	○老朽化している施設に対して、適切な維持管理に努めていただきたい。 ○地域のニーズを的確に把握し、住民の参画と協力を得た運営に努めていただきたい。 ○公民館は地域の拠点施設として、維持管理はもとより充実を図って欲しい。	A	事業拡大
学ぶ機会の充実	75	生涯学習企画推進事業	生涯学習のまちづくり推進協議会の運営により、生涯学習推進体制の充実を図る。	678	生涯学習のまちづくり推進協議会を2回開催した。生涯学習・花いっぱい運動にかかる作品・花壇の審査・表彰を行った。	386	4	8	A	○様々な世代の市民が、生涯にわたって、興味関心のある学習活動に参加する喜びを実感できる取組を企画運営していただきたい。	A	現状維持
	76	美祢市生涯学習フェスタ運営事業	生涯学習表彰、文化祭の開催等生涯学習の総合フェスティバルを開催する。	682	11月5日(土)から11月27日(日)美祢市民会館・勤労青少年ホームにおいて美祢市生涯学習フェスタを開催した。	652	5	9	A	○市民の学習の成果の発表の場として有意義であり、活動の励みになっている。 ○市民の学習成果の発表の場であり、励みとなっている。	A	現状維持

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
学ぶ機会の充実	77	市民大学公開講座事業	著名人を招いた公開講座を開講する。	0	令和4年度は実施なし。	0	-	-	-	○老若男女問わず幅広い層が魅力を感じるような講座にしていきたい。 ○魅力ある講師を招来するためにも、隔年開催も良い。	A	現状維持
	78	二十歳のつどい運営事業	美祢市在住及び出身者及び市内高校卒業業者である二十歳を祝い、記念行事・記念撮影を開催する。	1,047	令和5年二十歳のつどいを実施し、139人の出席があった。	1,044	5	9	A	○人生の大きな節目を祝うイベントを、内容や運営方法を工夫・改善して継続していただきたい。 ○地元故郷の成人式に出席していただくのがベストである。	A	運営手法等の見直し
	79	花づくり推進事業	生涯学習の一環として、各公民館・学校等への花の配布及び美東・秋芳の観光地沿線花壇を整備する。	4,489	年2回、春と秋に市民総社会参加活動を実施。花苗を約127,000本配布し、延べ4,484人の参加があった。また、美東・秋芳の観光地沿線花壇を整備した。	3,906	4	6	B	○年2回の花壇整備は定着し、花壇はよく管理されている。 ○花壇の管理は行き届いており、伝統ある事業を継続していただきたい。	A	現状維持
	80	勤労青少年ホーム管理運営事業	勤労青少年の健全な育成と福祉の増進のための各種教室等を行う。	6,651	茶道教室外2教室を開催し、120人の利用があった。クラブ活動では、1,189人の利用があった。	6,508	3	7	C	○施設の役割は薄れていると思うので、必要性を検証の上、将来の在り方を廃止も含めて検討していただきたい。 ○具体的な活動の様子や運営状況がわからない。 ○事業目的や内容が変化しており、名称がそぐわないので検討が必要。建物は維持できれば維持されたい。	B	期間を定めて見直し
地域リーダー等の人材育成の推進	81	社会教育施策企画事業	社会教育主事講習に参加すること等で、地域づくりの中核を担う人材を育成する。	1,860	社会教育委員会会議を開催した。サテライトカレッジを3回開催し、61人の参加があった。	1,418	4	7	A	○地域づくりを担う人材育成に努めていただきたい。 ○まずは、市職員・教職員を社会教育主事講習に参加させることが重要であろう。	A	現状維持

1-2 生涯学習の体制づくり

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
住民参加による公民館の運営	82	公民館活動推進事業	地域住民参画による公民館運営のための運営審議会を開催する。	2,377	各公民館運営審議会を開催した。	1,830	4	7	A	○地域のニーズを的確に把握するとともに、審議の様子や結果等も広報していただきたい。 ○運営審議会委員が団体代表などで、マンネリ化しているのでは、地域の実態に即した運営を望む。	A	運営手法等の見直し
社会教育団体の活性化	83	社会教育団体助成事業	社会教育団体の育成強化と自主的に実施する事業活動に要する経費を一部補助する。	2,798	連合婦人会、子供会育成連絡協議会等へ活動費補助を行った。	1,968	4	8	A	○各種社会教育団体の活動内容等を精査の上、適正な支援を行っていただきたい。 ○旧態依然の団体の活動実績はいかに。地域振興に実績がある団体も社会教育団体に認定できないものか。	A	運営手法等の見直し
社会教育施設の充実	84	コミュニティセンター管理運営事業	地域住民の自主的なコミュニティ活動と生涯学習の拠点として活用し、産業及び教育振興を図る施設として運営する。	8,772	地域コミュニティ活動の拠点として利活用を図った。(上野・河原・田代・堀越・川東・城原・東厚)	8,443	4	8	A	○将来的に、利用実態に応じて、地域への譲渡、廃止等を検討すべきと考える。 ○地域コミュニティの活動拠点として活用されている。 ○地域の実情に沿った管理運営がなされているようであるが、振興策も必要であろう。	A	現状維持
	85	鳳鳴地域交流センター運営事業	地域住民の自主的なコミュニティ活動の促進及と地域の文化・教育及び芸術の振興を図る施設として運営する。	1,794	地域コミュニティ活動の拠点として利活用を図った。1,823人の利用があった。	1,741	4	8	A	○地域コミュニティの活動拠点として活用されている。 ○地域の活動拠点としての活用が定着している。	A	現状維持
	86	市民会館管理運営事業	市民の生涯学習の推進及び文化芸術の鑑賞及び活動の拠点として運営する。	19,208	市民会館の管理運営を行った。28,343人の利用があった。 トイレの改修設計を行った。	18,151	4	8	A	○施設の老朽化が進んでいるので、建替あるいは大規模修繕等の具体的な施設管理計画策定が必要と考える。 ○市民の諸活動の拠点として活用されている。 ○市民の活動拠点として、適切な運営がなされている。	A	現状維持
	87	美東センター管理運営事業	市民の生涯学習の推進及び市民文化活動のための施設として運営する。	6,196	美東センターの管理運営を行った。(施設内に大田公民館、美東図書館)	5,923	4	6	B	○市民の諸活動の拠点として活用されている。 ○美東地域の活動の拠点施設として、活用が行われている。	A	現状維持
	88	来福センター管理運営事業	市民の生涯学習の推進と生涯スポーツの普及を図るとともに、市民文化活動のための施設として運営する。	9,075	13,776人(うちサークル活動11,606人)の利用があった。	8,690	4	7	A	○地域コミュニティの活動拠点として活用されている。 ○地域のコミュニティ活動・サークル活動の拠点として、活用されている。	A	現状維持
	89	勤労青少年ホーム管理運営事業	【No80再掲】	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方針の検討	90	持続可能な地域づくりへの取組	公民館単位による地域の活性化を含めた公民館のあり方を検討する。	0	赤郷交流センターについて、市職員を1人とし、市長部局で集落支援員を配置した。	0	5	9	A	○効果を検証の上、他地域での導入も検討されたい。 ○地域コミュニティの活動拠点として活用されている。集落支援員の配置等、新たな地域づくりが期待される。 ○新しい試みの公民館として利活用が図られている。他の地域の先例となるうか。	A	現状維持

1-3 図書館活動の推進

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
図書館機能の整備・充実	91	3図書館（美祢・美東・秋芳）の施設整備	市民が安心して図書館を利用できるよう、図書館整備の計画を進める。	2,720	図書館あり方検討委員会を4回開催した。 図書館基本計画を策定	2,697	5	9	A	○新たな図書館の開館を機にDXによる3館の一体的な運営を確立していただきたい。 ○ネットワーク体制の整備や専門スタッフ等による支援体制を充実した新しい図書館づくりに努めていただきたい。 ○新しい図書館としての機能が待望されるが、公文書や視聴覚教材の保存を具備する必要があると感じる。	A	事業拡大
運営体制の整備	92	美祢図書館運営事業	美祢図書館を運営する。	15,853	美祢図書館の運営を行い、48,687冊の貸出を行った。	15,424	5	8	A	○県立図書館を始め、他の図書館や学校図書館等とのネットワーク、移動図書館による遠隔地利用者サービス事業等の拡充を期待する。 ○単純に、本の貸出数が5500冊減。	A	事業拡大
	93	美東図書館運営事業	美東図書館を運営する。	2,397	美東図書館の運営を行い、3,290冊の貸出を行った。	2,295	5	8	A	○魅力ある図書館運営に努めていただきたい。 ○単純に、本の貸出数が1200冊増。	A	事業拡大
	94	秋芳図書館運営事業	秋芳図書館を運営する。	2,559	秋芳図書館の運営を行い、6,537冊の貸出を行った。	2,416	5	8	A	○魅力ある図書館運営に努めていただきたい。 ○単純に、本の貸出数が1400冊減。	A	事業拡大
子どもの読書活動の推進	95	子ども読書活動推進事業	「美祢市子ども読書活動推進計画」策定による子どもの読書活動を推進する。	0	絵本読み聞かせ会等を実施とした。	0	5	8	A	○絵本の読み聞かせは、読書活動の入り口であり、参加する親子の交流の場ともなっている。参加者のニーズ(例えば、読み聞かせ会やブックトーク等、親子で本に親しむイベント等)を的確に把握して、事業を一層充実していただきたい。 ○「絵本読み聞かせ」は幼児期の大切な教育であり、母親達の交流の場ともなる。予算も付けて回数を増加していただきたい。	A	現状維持

2-1 子どものスポーツ機会の充実

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
子どもの体力向上の推進	96	スポーツ情報発信事業	広報などによるスポーツに関する情報を発信する。	0	市広報、MYT、HP等を活用し、スポーツに関する情報を発信した。	0	4	8	A	○様々な媒体を通じて情報発信に努めていただきたい。 ○スポーツ情報の発信は、市民の共有財産ともなる。	A	現状維持
	97	指導者養成事業	指導者の養成と資質の向上を図る。	0	スポーツ少年団指導者40人(うちスタートコーチ養成講習会2名参加)	0	5	6	B	○子どもの人間形成に重要な役割を果たす、スポーツ少年団指導者を対象とした講習会の充実に向けていただきたい。 ○指導者の確保と養成は欠かせない。	B	現状維持
	98	市体育祭開催事業	競技スポーツの振興とニュースポーツの普及を図る。	300	10月に市民体育祭を開催した。7種目で453人の参加があった。	233	4	6	B	○スポーツに親しむ機会を増やし、スポーツの振興と体力の向上に努めていただきたい。 ○ニュースポーツ推進の要でもあり、種目・参加者が増加している。	B	現状維持
	99	美祢市駅伝大会開催事業	美祢市駅伝競走大会を開催する。	1,000	12月4日(日)にマツダ(株)美祢自動車試験場において駅伝競走大会を開催した。市内外から47チームが参加した。	1,000	4	8	A	○以前(かなり前だが)のように、美祢市役所～美東病院間で実施すれば、市民にとってより身近なものになり、一層盛り上がるのではないかと考える。 ○市内外から多くのチームが参加する、市民に定着した大会である。継続していただきたい。 ○冬季の伝統ある行事で継続が望まれる。	A	現状維持
子どもを取り巻くスポーツ環境の充実	100	スポーツ少年団運営事業	スポーツ少年団の活動を支援する。	100	スポーツ少年団13団体に対し、活動支援を行った。	100	4	8	A	○子ども達の健全な育成のため、活動支援を継続していただきたい。 ○少年団の育成は継続されるべき。	A	運営手法等の見直し
	101	やまぐち部活動改革推進事業	部活動の地域移行の体制整備等を推進する。	1,547	美東中の部活動を対象に、地域移行の実証事業を実施した。	1,253	5	10	A	○平日の学校部活動も含め、地域クラブ活動として展開していくことで、教員の働き方改革の一助としてほしい。 ○平日の指導者確保は難しい面があると思われるが、指導者の増加を期待したい。	A	事業拡大

2-2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
成人のスポーツ参加機会の拡充	102	市民ナイターソフトボール大会開催事業	初秋の夜をナイターのもとでスポーツに親しみ、体力づくりをめざす市民ナイターソフトボール大会を開催する。	200	9月に伊佐公園グラウンドにおいて開催した。(11チーム参加)	156	4	6	B	○チーム数が減っているので、ナイターで実施することの意義を検討する必要があると考える。 ○市民の体力づくり、交流の場として魅力ある大会運営に努めていただきたい。 ○久々の開催で意義は大きい。	B	運営手法等の見直し
	103	スポーツ情報発信事業	【No96再掲】		—	—	—	—	—	—	—	—
	104	美祢市駅伝大会開催事業	【No99再掲】		—	—	—	—	—	—	—	—
	105	体育協会支援事業	スポーツ関係団体の活動を支援する。	1,700	各種体育団体の活動支援のため、体育協会へ補助を行った。	1,700	4	8	A	○競技力の向上と体育協会の体制の充実のため、支援を継続していただきたい。 ○民間団体の支援は必要である。	A	現状維持
	106	市民体育祭開催事業	【No98再掲】		—	—	—	—	—	—	—	—
高齢者の体力づくりの支援	107	体育協会支援事業	【No105再掲】		—	—	—	—	—	—	—	—
	108	スポーツ情報発信事業	【No96再掲】		—	—	—	—	—	—	—	—
	109	水中運動教室開催事業	市民課と共催で温水プールを利用した水中運動教室を開催する。	0	健康づくり水中運動教室を開催し、80人の参加があった。	0	5	8	A	○市民の健康のため大切な事業と思うので、一層充実していただきたい。 ○高齢者が健康づくりのために参加するスポーツ教室である。継続していただきたい。 ○参加者が大幅に減少したが、継続すべきであろう。	A	現状維持
安全・安心の確保	110	施設巡回点検事業	巡回により各施設や用具を点検する。	0	巡回により各種施設や用具の点検を行った。	0	5	8	A	○定期的な点検や事故対応への意識・啓発により、市民が施設を安全・安心に利用できるように努めていただきたい。	A	現状維持

2-3 地域のスポーツ環境の整備

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額(千円)	令和4年度実施状況及び成果	決算額(千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終評価	今後の方向性
							重要度	有効性	評価			
総合型地域スポーツクラブの育成	111	総合型地域スポーツクラブの設立・支援事業	総合型地域スポーツクラブの設立・支援を行う。	0	むぎがわ元気クラブの運営支援と厚狭地域スポーツフェスタへの運営協力を行った。	0	5	8	A	○効果を検証の上、他地域にも広げていただきたい。 ○新規の総合型地域スポーツクラブの設立を期待している。	A	現状維持
スポーツ指導者やスポーツボランティアの育成	112	スポーツ推進委員研修の開催	スポーツ指導者の資質向上のための研修を行う。	459	山口県スポーツ推進委員研修会に10名参加した。	95	5	8	A	○スポーツ振興のため、スポーツ推進委員の資質向上に資する研修に努めていただきたい。 ○委員の研修は必要である。	A	現状維持
	113	指導者養成講習会の参加促進	指導者養成講習会への参加を促進する。	0	スポーツ推進委員36人うち女性委員会実技研修会3名参加	0	5	7	A	○スポーツ振興のため、指導者の養成に努めていただきたい。	A	現状維持
スポーツ施設の充実	114	体育施設管理運営事業	体育施設を管理する。	132, 139	運動広場、体育館、プール、球場等の管理を行った。秋芳体育館の解体を行った。	129, 696	5	9	A	○今後、市内全域を見据えた計画的な施設管理（新築、大規模修繕、解体等）が必要と考える。 ○施設の老朽化が進む中、施設の安全な管理は喫緊の課題である。	A	現状維持
	115	学校体育施設開放事業	学校の施設を市民に開放し、スポーツ活動を推進する。	60	市内の学校体育施設を学校教育に支障のない範囲で開放し、市民の健康増進を図った。47団体の利用があった。	44	5	9	A	○市民の健康づくりのため、学校教育に支障のない範囲での学校施設の開放は継続していただきたい。 ○施設を開放して有効活用を図ることは有意義である。	A	現状維持
競技力の向上	116	各種大会出場支援事業	全国大会への出場を支援することにより競技スポーツの振興を図る。	295	全国大会等に出場する個人又は団体へ激励金を交付した。(48人、2団体)	295	5	9	A	○選手にとって、激励金は大きな励みとなる。継続していただきたい。 ○選手にとって大きな励みとなる。	A	現状維持
	117	各種大会開催支援事業	大会開催や出場を支援することにより競技スポーツの振興を図る。	680	山口県体育大会や山口県読売駅伝への出場を支援し、競技力の向上に努めた。	617	5	8	A	○競技スポーツの振興のため、支援を継続していただきたい。 ○選手にとって大きな励みとなる。	A	現状維持
	118	優秀選手表彰制度の充実	県大会で優秀な成績を収めた者に対して表彰を行う。	319	県大会等で優秀な成績を収めた者を表彰した。(栄光賞・優秀選手賞39人、4団体)	272	5	8	A	○選手にとって、表彰制度は大きな励みとなり、競技力の向上にも繋がる。 ○選手にとって大きな励みとなる。	A	現状維持

3-1 地域文化活動の継承

主 な 取 組	事業 番号	事 業 名	事 業 内 容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
伝統、民俗芸能の 保存・継承	119	伝統芸能保存 団体育成・支 援事業	保存団体による伝統芸能の保存・継承 活動を維持するため支援。	34	後継者育成のため、地域住民や小 中学生らと練習を重ね、奉納に必 要な草履や花つくりの作業を行っ ているが、新型コロナウイルス感 染症拡大防止により今年度も事業 中止となったため、補助金の交付 なし。	0	4	6	B	○120の事業に統合されることを検討 されたい。 ○伝統芸能の保存・継承のため、支援 を継続していただきたい。 ○伝統芸能の保存・継承のため支援は 必要。	B	現状維持
	120	民俗芸能保存 継承の支援	地域に根付く民俗芸能を将来に渡って 引き継げるよう保存・継承活動を支 援。	80	市内の民俗芸能保存団体で組織さ れる美称市民俗芸能保存連絡協議 会に対し、補助金交付により支援 した。	80	5	8	A	○後継者問題等、継承が困難な事例も あろうが、民俗芸能保存連絡協議会 を通じて保存・継承に努めていただ きたい。 ○民俗芸能の保存・継承のため、協議 会を通じての激励や支援が必要。	A	現状維持
地域文化の保存 ・継承	121	地域文化保 存・研究団体 支援・育成事 業	地域文化の保存・継承及び研究団体の 活動を維持するため支援。	160	会報発刊や講演会開催また史跡探 訪を実施した2研究団体に対し、 補助金交付により支援した。	100	4	8	A	○地域文化の保存・継承及び研究活動 に支援を継続していただきたい。 ○支援は必要で、活動実績に因み補助 金の増額も検討されたい。	A	現状維持
芸術・文化活動 の推進	122	秋吉台国際芸 術村運営事業	秋吉台国際芸術村の管理運営委託を行 う。	27,629	公益財団法人山口きらめき財団に 指定管理業務を委託した。	27,629	5	8	A	○一層の市民の利用促進に努めていた だきたい。 ○施設存続のため、衆知を集め、利活 用策を検討していただきたい。 ○施設存続の為に、利活用の増大に 努める必要がある。	A	現状維持
文化活動拠点 施設の充実	123	公民館活動推 進事業 市民会館管理 運営事業	【No82・86再掲】	—	—	—	—	—	—	—	—	—

3-2 文化財の保存と活用の推進

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要性	有効性	評価			
指定文化財の 保存・保護	124	指定文化財保護管理事業	文化財の保護管理委託や清掃委託など と通じ、指定文化財を適切に保護・管 理し活用を図る。	1,970	指定文化財を保存・管理・活用し 継承していくための維持管理を実施 した。	1,703	5	10	A	○指定文化財の保全は行政の責務であり、公平適正な維持管理が望まれる。 ○指定文化財の公平な維持管理が望まれる。また、市内の貴重な歴史資料の保全や公文書の保存のために、各地域に調査員を委嘱する方策を検討されると良い。	A	現状維持
	125	秋吉台保全活用計画策定事業	策定した秋吉台保存活用計画に周知し、計画の進捗状況を検証する。	146	令和3年度策定した「特別天然記念物秋吉台保存活用計画」を、文化庁に認定申請し認定を受けた。併せて、保存活用計画の内容を説明する市民説明会を実施した。	8	5	8	A	○策定された秋吉台保存活用計画の周知とともに、計画に基づく保全に努めていただきたい。 ○永年懸案の秋吉台保存活用計画が認定されたことは画期的なことで、主な内容を市民にも知らせるべきであろう。	A	現状維持
	126	秋芳洞再生事業	前年度までに判明した照明植生の現状並びに原因に対して、除去・抑制を目指した再生手法を検討・試行し、委員会を開催して再生手法の影響や効果の検討を行う。	4,303	再生事業評価委員会を3回開催。秋芳洞内での再生手法の検討・試行を実施し、委員会にてその影響や効果の検討を行った。	3,956	5	8	A	○早期に、有効な再生手法の確立が望まれる。 ○難解な事案と思考され、全国的にも注目されており、慎重な対策は評価できる。	A	現状維持
	127	文化財保護団体の支援・育成	【No121再掲】	—	—	—	—	—	—	—	—	—
文化財の活用	128	長登銅山跡地整備事業	長登銅山跡のさらなる整備を目標とし、整備計画作成の基礎資料となる調査等を行う。	9,572	報告書作成のため既往発掘調査の整理作業や、花の山製錬所跡石垣を対象に3次元測量を実施した。	9,327	5	8	A	○貴重な国指定史跡である。文化財の保存・管理の重要性を啓発するとともに、有意義な活用ができるように整備を進めていただきたい。 ○報告書作成の整理や整備調査の成果が認められる。ただ、長登銅山跡に関する委員会が整備や調査など多岐にわたり、委員の構成を再検討すべきであろう。	A	現状維持
	129	出前講座開催事業	美祿市の文化財の学習及び文化財保護意識の高揚のため、学校や社会教育団体に出向き講座を実施する。	0	文化財保護課専門職員が美祿市の歴史や文化財について6件の講座を実施した（ジオアカデミー2回、ふるさと歴史講座、みとう大学歴史講座、大嶺中2年、伊佐中2年、）。	0	4	8	A	○実施件数が増えるように一層の周知に努めていただきたい。 ○市の文化財を知るとともに、文化財保護意識を高めるため、多くの学校や社会教育団体で出前講座を実施していただきたい。 ○文化財保護啓蒙の為の出前講座は意義がある。職員のみでなく民間人も実施されているので把握しておく必要がある。	A	現状維持
	130	銅山まつり開催事業	長登銅山跡において地域交流、学校教育のため、銅製錬実験や体験イベントを実施する。	480	新型コロナウイルス感染拡大以降、3年ぶりに第15回銅山まつりを10/23に開催し、来場者約600人。	480	4	8	A	○地域の中学生が、銅製錬実験等貴重な体験ができることは、有意義である。 ○久々の開催で体験活動が再開され、大いに評価できる。	A	現状維持

3-3 学術活動の推進

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
学術活動の推進	131	大仏ミュージアム管理運営事業	長登銅山跡発掘調査等資料の展示及び調査協力、団体への教育を行い、市民の文化財の理解を深め、地域交流、学術活動推進を図る。	9,354	昨年度に引き続き鑄造体験等のPRを実施。新型コロナウイルス感染拡大の影響により修学旅行先として、大幅な利用増加となった。 〔鑄造体験実施者〕令和元：72人、令和2：912人、令和3：1,276人、令和4：1,648人	8,981	5	8	A	○修学旅行の目的地として最適と思われるので、一層の誘致に努めていただきたい。 ○更なる情報発信により、子ども達の文化財の理解を深めていただきたい。 ○修学旅行の鑄造体験が増加しているのは評価できるが、赤字とならない改善策が必要であろう。なお、全体の見学者増にも努力されたい。	A	現状維持
	132	歴史民俗資料館管理運営事業	美祢市の歴史民俗資料や地学資料等を総合的に保管・展示・活用し、郷土の歴史や文化、文化財を後世へ伝え、市民の意識と理解を深める。	5,834	特別展や、化石調査事業の一環として現地説明会を実施したことにより、近年減少傾向であった入館者が増加した。 〔入館者数〕令和元：1,412人、令和2：1,079人、令和3：970人、令和4：1,454人	5,489	4	8	A	○後世に伝えるべき資料を適切に保管・管理していただきたい。企画展等で、入館者の増加を期待する。 ○見学者の増は評価できる。	A	現状維持
	133	化石館管理運営事業	地学資料の総合的な保存活用及び調査研究を行い、郷土の地学・古生物学に対する市民の意識と理解を深める。	1,854	美祢市の化石を中心に展示。ミニ企画展を実施した。また体験コーナーも年10回実施した。 〔入館者数〕令和元：3,317人、令和2年：2,743人、令和3：3,117人、令和4：4,092人	1,752	4	8	A	○後世に伝えるべき資料を適切に保管・管理していただきたい。企画展等で、入館者の増加を期待する。 ○入館者が増加しており、企画展や体験コーナーの企画が評価される。	A	現状維持
	134	化石採集場管理運営事業	化石採集場の整備を行いディキノドン調査を適切・安全な状況で実施できるようにし、産出した化石の追加標本採集及び整理を行う。	402	調査最終年度。化石採集場は閉鎖中であり、九州大学の学生に調査業務の一部を委託した。ディキノドン類化石調査事業のまとめとして、3/18に化石採集場調査報告現地説明会を実施、参加者26人。	239	4	6	B	○調査終了後は、貴重な地域資源の調査・研究結果や成果を広く情報発信していただきたい。 ○化石採集体験が出来るよう、対策を講じる必要がある。	B	運営手法等の見直し
	135	秋吉台科学博物館管理運営事業	博物館施設の維持管理、来館者案内等を行う。また、ジオパーク活動の拠点として秋吉台地域の魅力を広くPRし、自然保護を啓発する。	14,071	新型コロナウイルス感染拡大防止のため入館者は例年に比べ減少しているが、それでも令和2・3年度に比べて増加した〔入館者数〕令和2年度：8,303人、令和3年度：8,732名、令和4年度9,168人)。また、研修団体についてはコロナ前は遠方の都道府県の小中学生が2割、県内・近県の小中学生が8割だったが、コロナ後の令和2年度から令和4年度まで、遠方1割、県内・近県が9割となっている。 さらに、山口大学・美祢市パートナーシップ事業運営協議会要項に基づき山口大学秋吉台アカデミックセンターの運営を支援した。	13,888	5	8	A	○ジオパーク活動の拠点として重要な施設であること、また、学術的な研究活動の拠点でもある。秋吉台の魅力を広く発信していただきたい。 ○入館者が増加しており良い傾向だ。なお、アカデミックセンターの研究活動を広く発信していただきたい。	A	現状維持

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度 実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
学術活動の推進	136	秋吉台科学博物館建設基本構想策定事業	秋吉台科学博物館の整備計画に関し、基本構想の策定を行う。	445	秋吉台科学博物館建設基本構想策定委員会設置要綱の制定及び委員を委嘱し第一回の委員会を開催した。委員会において、現在の博物館の現状と課題を整理し新たな博物館が目指す方向性等について協議を行った。	244	5	8	A	○歴史民俗資料館、化石館も含めて、各館の役割を明確にして体系化し、本市の文化財の価値を今まで以上に効果的に内外にアピールするよう努めていきたい。 ○秋吉台科学博物館建設基本構想の策定により、地域資源を最大限に生かした活動を継続・発展させていきたい。 ○策定委員会は専門家ばかりでなく、地元の有識者の意見も参考にすべきで、地域に親しまれる博物館を目指すべきである。	A	現状維持
教育活動への取組	137	秋吉台科学博物館展示及び普及教育事業	秋吉台の自然と文化に関する資料（標本・情報）を収集整理保存し、学術的な研究活動を行いその成果を教育活動に利用することで地域の文化的発展に寄与する。 ※予算額及び決算額は事業135を含む。	-	4件の特別展を実施し、共催を含めて3件の自然観察会を行った。また、普及教育活動として、修学旅行研修対応のほか市内外の小・中・高等学校、教育団体を対象に講演・研修指導を行った。また、各種教育雑誌への寄稿を行った。	-	5	8	A	○学術的な研究活動とともに、普及教育活動にも積極的に取り組んでいきたい。 ○特別展や自然観察に努力が認められる。出前講座も有意義であり、研究成果を市民にも知らせて一体感を養う必要もある。	A	現状維持
	138	資料館特別展及び化石館ミニ企画展開催事業	特別展及びミニ企画展を実施し、文化財や化石資料への意識と理解を深める。 ※予算額及び決算額は事業132・133を含む。	0	資料館においては、特別展新発見化石公開展示「東アジア最古の潜葉痕化石」を7/20～10/2に開催し、期間中来館者は429人。化石館においては、ミニ企画展を9/28～11/27（[来館者]1,809人）及び11/29～に開催した。	0	4	8	A	○最新の情報や研究成果を取り入れた特別展や企画展を開催することにより、市民の文化財等に対する意識の向上と理解深化を図っていただきたい。 ○企画展の開催に努力がはらわれており、評価できる。	A	現状維持
	139	大仏ミュージアム企画展開催事業	企画展を定期的に実施し、長登銅山跡をはじめ文化財への理解促進を図る。 ※予算額及び決算額は事業131を含む	195	「山陰の鉱山王～堀藤十郎礼造～」をR4.3/21～R5.4/9まで開催し、期間中来館者は229人。企画展に伴う講座「銅山師 堀家と堀藤十郎」も4/7に実施し、受講者は21人。	83	4	8	A	○企画展や講座の開催・実施により、市民の文化財等についての理解を促進していただきたい。 ○企画展の内容が、銅山の歴史に関係したもので意義があった。ただ、宣伝方法を検討されたい。	A	現状維持

3-4 ジオパーク活動の推進

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額(千円)	令和4年度実施状況及び成果	決算額(千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終評価	今後の方向性	
							重要性	有効性	評価				
ジオパーク活動の推進(ジオパーク推進協議会事業)	140	他地域との交流事業	ジオパーク全国大会(JGN)・アジア太平洋地域大会(APGN)・ユネスコ世界ジオパークオンライン研修(GGN)や全国研修会に参加し、他地域との交流による情報の共有を行う。JGN・APGNでの中高生のジオ学習の発表を支援する。	15,224	JGN・APGN・GGN関係の会議等にオンラインにて参加し、他地域のジオパーク関係者と情報の共有を図った。 JGN・APGNでの中高生の学習発表について支援を行った。	15,054	5	9	A	○他地域のジオパーク関係者との積極的な交流により、情報の共有を図っていただきたい。 ○市内の中高生が、美祿市のジオ学習を発表するのは、素晴らしいことだ。	A	現状維持	
	141	美祿ジオパーク学習推進事業	【No29再掲】		—		—	—	—	—	—	—	—
	142	小・中・高等学校出前講座事業	学校での出前講座等を行い、児童・生徒へジオパーク活動の意義や重要性を普及する。		児童・生徒向け教育活動を56回延べ1,113人に実施し、児童・生徒へジオパーク活動の意義や重要性を普及した。		5	10	A	○小・中・高と継続して啓発活動を行うことが、非常に効果的と思う。 ○出前講座の開催により、児童生徒のジオパークに関する理解度が高まってきた。 ○ジオ学習推進の出前講座は、成果が上がっている。	A	現状維持	
	143	ジオパーク生涯学習事業	ジオカフェを開催し、市民等へジオパークの普及啓発を行う。ガイド研修を実施し、ジオガイドのスキルアップ・育成を行う。		ジオパークイベントを開催し、市民を中心に広く周知を行った。ガイド連絡会議を9回開催し、情報の共有やガイドのスキルアップを図った。		5	9	A	○市民への浸透をより深めるためジオパークのイベントだけでなく、一般市民が多く参加する各種イベントでも周知活動を続けて行っていただきたい。 ○ジオガイドの育成・スキルアップに努めていただきたい。 ○ジオガイドの育成は必要である。秋吉台のみでなく市内の各ジオサイトについても研修が望まれる。	A	現状維持	
	144	プロモーション事業	ジオフェスの開催による普及啓発と、広報誌の発刊、HP・SNS等による情報発信を行う。		広報誌の毎月発刊(全戸配布)をはじめ、ジオフェス等のイベント開催やHPやSNSの情報発信を行ったほか、SDGsへの取組紹介映像を制作した。		5	9	A	○全戸に毎月配布される広報誌や様々な媒体による情報発信は有効である。 ○広報誌の定期刊行は、市民にも理解され有効である。	A	現状維持	
145	ジオツアー充実事業	ジオツアーを充実した内容にブラッシュアップし催行する。	ジオツアー296件(前年度比146件増)催行し、参加人数1,691人(前年度比574人増)であり、新型コロナの影響から回復しつつある。また、コロナ禍で個別でのツアー参加が多くなり件数増加のわりに参加人数が増加していない。今後は、コロナ禍以前のように団体旅行でのジオツアー増も予想される。	5	9	A	○様々な媒体による積極的な情報発信を市内のジオサイト全域に拡大するとともに、魅力あるジオツアーを催行し、市民の関心と保護、保全の意識を高めていただきたい。 ○開催回数・参加者が増加し評価できる。今後、市内全域のジオサイトへ発展することが望まれる。	A	現状維持				

主な取組	事業番号	事業名	事業内容	予算額 (千円)	令和4年度実施状況及び成果	決算額 (千円)	第1次評価			学識経験を有する者の知見	最終 評価	今後の 方向性
							重要度	有効性	評価			
拠点施設整備	146	ジオパーク拠点施設整備推進事業	ジオパークの拠点施設となる博物館等の施設改修、展示更新を行う。	4,205	秋吉台科学博物館2階地球の歴史展示室の展示更新及び歴史民俗資料館の2階の展示更新の作業を進めた。	4,036	5	9	A	○ジオパーク活動の拠点として魅力を高めていただきました。 ○懸案であった秋吉台科学博物館の展示替えが実施されことは素晴らしい。	A	現状維持
受け入れ態勢の充実	147	ジオサイト整備事業	大嶺炭田（桃ノ木露天掘り跡）を整備し周遊できる状態にする。ジオサイト説明看板を設置する。	6,527	大嶺炭田（桃ノ木露天掘り跡）を整備し、周遊できる状態にした。ジオサイトの説明看板を設置した。（荒川水平坑・青景银山跡）	4,228	5	9	A	○ジオサイトの整備充実は喫緊の課題である。市内全域のジオサイトの整備に努めていただきました。 ○市内のジオサイトの整備が遅まきながら着手されたのは大いに評価できる。今後も継続すべきである。	A	現状維持
	148	Mine秋吉台ジオパークセンター管理運営事業	Mine秋吉台ジオパークのビジターセンターとして、来場者にMine秋吉台ジオパークの魅力を伝えるとともに、ワンコインジオツアーの実施、観光案内業務等を行う。	12,885	カルスター入館者111,781人（前年度比28,210人増）であり、新型コロナウイルスの影響から回復しつつある。ワンコインジオツアー181件（前年比88件増）	12,657	5	9	A	○Mine秋吉台ジオパークセンターを拠点施設として、来場者にジオパークの魅力を伝えていただきたい。 ○入館者などが大幅に増加しており好ましいことである。観光客も増加しつつあり、さらなる魅力づくりに務めていただきたい。	A	現状維持

3 評価結果

(1) 最終評価

点検評価対象の148事業（評価132事業、再掲他16事業）について、重要度（政策目標を実現する上での役割）及び有効性（成果の度合い及び目標の達成）を評価した結果、A評価（現状を維持しながら、効率的な事業執行が求められる事業）が124事業（93.9%）、B評価（優先的に成果のある効果的な取組が求められる事業）が8事業（6.1%）、C評価（費用対効果の高い取組が求められる事業）が0事業、D評価（抜本的な事業の見直しが求められる事業）が0事業、となりました。

基本目標	基本施策		最終評価				合計	再掲他
			A	B	C	D		
1 生きる力を高め、将来を担うひとづくり	1 学校運営の質の向上	事業数（事業）	25	1	0	0	26	1
		割合（%）	96.2	3.8	0.0	0.0	100.0	—
	2 学校教育の質の向上	事業数（事業）	30	0	0	0	30	6
		割合（%）	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	—
	3 家庭・地域の教育力の向上	事業数（事業）	6	0	0	0	6	0
		割合（%）	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	—
2 生涯にわたり、豊かなつながりを育む地域づくり	1 生涯学習の推進	事業数（事業）	23	2	0	0	25	1
		割合（%）	92.0	8.0	0.0	0.0	100.0	—
	2 生涯スポーツの推進	事業数（事業）	15	3	0	0	18	5
		割合（%）	83.3	16.7	0.0	0.0	100.0	—
	3 芸術・文化活動の推進	事業数（事業）	25	2	0	0	27	3
		割合（%）	92.6	7.4	0.0	0.0	100.0	—
合計	事業数（事業）	124	8	0	0	132	16	
	割合（%）	93.9	6.1	0.0	0.0	100.0	—	

(2) 今後の方向性

自らの評価の結果に基づき、事業実施にあたって、課題解決に向けて今後の方向性を示しました。

その結果、「事業拡大」が8事業(6.1%)、「現状維持」が112事業(84.8%)、「期間を定めて見直し」が2事業(1.5%)、「運営手法等の見直し」が10事業(7.6%)となりました。

基本目標	基本施策		今後の方向性							合計	再掲他	
			事業拡大	現状維持	期間を定めて見直し	運営手法の見直し	事業縮小	期間を定めて終了	事業完了			事業廃止
1 生きる力を高め、将来を担うひとづくり	1 学校運営の質の向上	事業数(事業)	2	22	1	1	0	0	0	0	26	1
		割合(%)	7.7	84.6	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	—
	2 学校教育の質の向上	事業数(事業)	0	28	0	2	0	0	0	0	30	6
		割合(%)	0.0	93.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	—
	3 家庭・地域の教育力の向上	事業数(事業)	0	6	0	0	0	0	0	0	6	0
		割合(%)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	—
2 生涯にわたり、豊かなつながりを育む地域づくり	1 生涯学習の推進	事業数(事業)	5	15	1	4	0	0	0	0	25	1
		割合(%)	20.0	60.0	4.0	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	—
	2 生涯スポーツの推進	事業数(事業)	1	15	0	2	0	0	0	0	18	5
		割合(%)	5.6	83.3	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	—
	3 芸術・文化活動の推進	事業数(事業)	0	26	0	1	0	0	0	0	27	3
		割合(%)	0.0	96.3	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	—
合計	事業数(事業)		8	112	2	10	0	0	0	0	132	16
	割合(%)		6.1	84.8	1.5	7.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	—

4 今後の取組

教育委員会の事務の点検及び評価において、3名の点検評価委員から多数の御意見をいただきました。教育委員会では、点検評価委員の知見を踏まえ、事業の妥当性、有効性及び費用対効果を検証し、PDCAサイクルを実施することで、より質の高い教育行政を行ってまいります。

なお、本市の実情に応じた教育振興を一層推進していくため、次の取組を進めてまいります。

① 小・中学校の適正規模・適正配置の推進

令和元年度に「第二次美祢市教育振興基本計画」及び「第二次美祢市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針」を策定しました。

令和元年4月に、豊田前中学校を大嶺中学校に、赤郷小学校を大田小学校に、城原小学校を大嶺小学校にそれぞれ統合し、令和3年4月には重安小学校を大嶺小学校に統合し、令和5年4月には、於福中学校を大嶺中学校に統合し、現在は、小学校11校、中学校5校となりました。

上記計画及び方針策定時に推計した児童生徒数の推移は、現在予想を上まわる減少傾向を示しています。今後の児童・生徒数の推移を注視しながら、美祢市の将来を担う大切な宝である児童・生徒を一番に考えた小・中学校適正規模・適正配置を推進していきます。

なお、「第二次美祢市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針」は、令和6年度末までを計画年次としています。第三次の適正規模・適正配置基本方針の策定も踏まえた、魅力ある学校づくりについて、検討を進めることとしています。

② 学校給食センター整備の推進

市内6か所にある学校給食共同調理場はいずれも老朽化が進み、学校給食衛生管理基準を充足することが困難となっています。令和6年度二学期から新たな学校給食センターを供用開始する計画で、建設工事を進めています。

それまでの間、現有施設を有効活用しながら、子供たちの健やかな成長と持続可能なセンターを目指し、学校給食センターの整備を推進していきます。

また、給食センターの整備を機に、給食費の公会計化を進めることとしています。

③ ICT技術を活用した取組の推進

GIGAスクール構想により全ての児童・生徒にタブレット型パソコンを貸与するなどICT環境が整いつつある中、学習用ソフトを駆使した個別最適化授業（自由進度学習）等への対応と、教職員のICT活用のさらなるスキルアップを推進します。

④ mineto 教育改革プロジェクトの推進

子供たちの好奇心を引き出し挑戦する力を育てることをコンセプトとし、令和3年度に美祢市公設塾minetoの運営を始めました。

今後、公設塾 mineto を継続運営するとともに、慶応大学 SFC 研究所と連携した学校への出前プログラムや合宿イベント、子供たちの自己決定を目的としたキャンプ等、子供たちの社会的自立のための取組をさらに充実させ、mineto 教育改革プロジェクトとして推進します。また、幅広い市民の皆様に向けた情報発信を強化して行きます。

⑤ 美祢図書館整備の推進

現在の美祢市の3つの図書館施設は、合併以前の旧1市2町のそれぞれの図書館を引き継ぐ形で運営しており、老朽化が進行し耐震強度も不足しています。

かつて堅苦しいイメージであった図書館は、今日、地域社会の中で求められるあり方が大きく変わりつつあります。激しく変化していく現代社会において、自らが暮らす地域の歴史や自然、大地の恵みを理解し、新しい知識や情報を吸収し活用する能力や、課題を発見し解決する力といった、自らの未来を切り開くための「考える力」や「生きる力」を育てるため、資料・情報を求めるすべての市民の要求にこたえ、生涯学習の様々な手助けとなる図書館の整備を推進します。

また、子育て支援や健康づくり、学びの活動場所など、複数の施設との複合化を検討します。

⑥ 部活動の地域移行の推進

少子化が進む中で、将来にわたり生徒がスポーツ・文化活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、また、部活動に従事する教員の負担軽減のため、学校部活動から地域クラブ活動への移行を進めています。

⑦ 秋吉台科学博物館建設基本構想策定事業の推進

秋吉台科学博物館は、昭和34年に建設したのですが、建物・展示物の老朽化が散見され、耐震・バリアフリー化といった課題があります。また、博物館利用者のニーズの多様化、生涯学習活動やボランティア活動の拠点、さらには、文化振興を起点とした観光振興、地域振興など、博物館には新たな役割が求められています。

建替を含めた計画的な整備を推進していくため、秋吉台科学博物館建設基本構想策定委員会を開催し、新たな博物館のあるべき姿等について、検討を進めています。

⑧ ジオパーク活動の推進

Mine 秋吉台ジオパークは、秋吉台や秋芳洞をはじめとする、世界的な価値を有する貴重な地質遺産等を保全しながら、ジオツアー等を通じてその魅力を発信することで、国内外の交流を拡大させ、地域経済の循環を促進しつつ、持続可能な発展を目指しています。

また、ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた取組を推進します。

令和5年度美祢市教育委員会事務事業の点検及び評価の実施に関する方針

美祢市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定に基づき実施する、事務事業の点検及び評価の実施に関する方針を以下のように定める。

1 点検・評価の目的について

教育委員会自らが定めた方針に従い、課題解決的な教育行政が執行されているかどうか、教育委員会自らが事務事業を点検・評価して報告書を作成する。作成した報告書は議会に提出するとともに、ホームページで公表し、市民への説明責任を果たし、結果を事業に反映することで不断の改善を進め、効果的な教育行政を実現する。

2 評価事項について

教育委員会は、前年度の教育委員会の事務事業について、次に掲げる内容について点検評価を実施する。

- ① 教育委員会の活動状況（教育委員会会議の開催状況、学校訪問の状況等）
- ② 教育委員会の事務事業の実施状況（「美祢市教育振興基本計画 実施計画」に掲げる主な取組のうち主要事業の実施状況及び成果）
- ③ その他教育委員会が必要と認めた事務事業についての対応の状況

3 事務事業評価の基準について

担当課において、事務事業の重要度及び有効性について、第1次評価を行う。

教育委員会は、点検及び評価の客観性を確保するために、美祢市教育委員会事務点検及び評価実施要綱（平成21年美祢市教育委員会告示第3号）第3条の規定による学識経験者（点検評価委員）の意見を活用し、最終評価を行う。

重要度に関する評価点

① 政策目標を実現する上での役割

評価点	内容
5	重要である
4	やや重要である
3	どちらでもない
2	あまり重要でない
1	重要でない

有効性に関する評価点

① 施策の実施による成果の度合い

評価点	内容
5	有効である
4	やや有効である
3	どちらでもない
2	あまり有効でない
1	有効でない

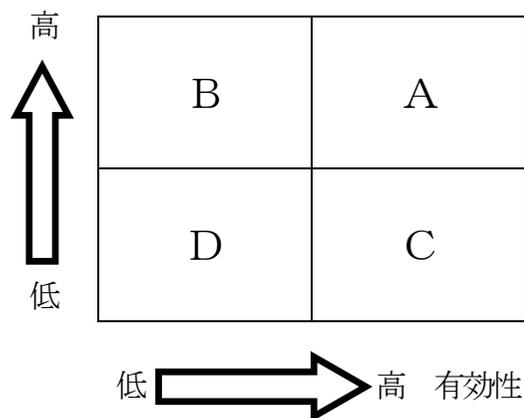
② 施策の目標を達成できたか

評価点	内容
5	達成できた
4	ほぼ達成できた
3	どちらでもない
2	あまり達成できなかった
1	達成できなかった

第1次評価及び最終評価

評価区分	重要度①	有効性（成果の度合い①+達成度②）
A	4・5	7～10
B	4・5	6～2
C	3～1	7～10
D	3～1	6～2

重要度



区分	重要度	有効性	基本的な考え方
A	高	高	現状を維持しながら、効率的な事業執行が求められる事業
B	高	低	優先的に成果のある効果的な取組が求められる事業
C	低	高	費用対効果の高い取組が求められる事業
D	低	低	抜本的な事業の見直しが求められる事業

4 事業の方向・方針について

自らの評価の結果に基づき、事業実施にあたっての課題を明らかにする。課題解決に向けて今後の取組の方向性を示す。

今後の方向性	内容
事業拡大	事業を拡大する事業
現状維持	今までどおり実施する事業
期間を定めて見直し	近い将来見直しが必要な事業
運営手法等の見直し	運営主体の変更、実施時期の変更、実施対象の変更などの変更を行う事業
事業縮小	事業の縮小を行う事業
期間を定めて終了	事業の終了年度を定めて実施する事業
事業完了	事業を完了とする事業
事業廃止	事業の廃止を行う事業

5 結果の公表に関する事項

教育委員会は、評価事項を点検評価して報告書を作成し、この報告書を議会に提出し、また、ホームページで公表する。